

振興圏別の整理

■県央広域振興圏(盛岡市・八幡平市・滝沢市・雫石町・葛巻町・岩手町・紫波町・矢巾町)……………	1
1. 人口の推移等……………	1
2. 市町村間の流動状況……………	1
3. 公共交通の運行状況……………	3
■県南広域振興圏(花巻市・北上市・遠野市・一関市・奥州市・西和賀町・金ケ崎町・平泉町)……………	5
1. 人口の推移等……………	5
2. 市町村間の流動状況……………	5
3. 公共交通の運行状況……………	7
■沿岸広域振興圏(宮古市・大船渡市・陸前高田市・釜石市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村) ……	9
1. 人口の推移等……………	9
2. 市町村間の流動状況……………	9
3. 公共交通の運行状況……………	11
■県北広域振興圏(久慈市・二戸市・普代村・軽米町・野田村・九戸村・洋野町・一戸町) ……………	13
1. 人口の推移等……………	13
2. 市町村間の流動状況……………	13
3. 公共交通の運行状況……………	15

■県央広域振興圏(盛岡市・八幡平市・滝沢市・雫石町・葛巻町・岩手町・紫波町・矢巾町)

1. 人口の推移等

1-1 人口の推移

2020(令和 2)年現在の人口は約 46 万 3 千人であり、現在まで減少傾向にあるが、2025 (令和 7) 年以降も減少する見込みである。なお、2045 (令和 27) 年の対 2020 (令和 2) 年比の当該広域振興圏の減少率は▲20%であり、県全体の減少率▲27%に比べて7ポイント低い見込みである。

高齢化率は現在まで増加傾向にあるが、2025 (令和 7) 年以降も増加する見込みであり、2045(令和 27) 年時点では、県全体が43.2%であるのに対し、39.9%と3.3ポイント少ない見込みである。

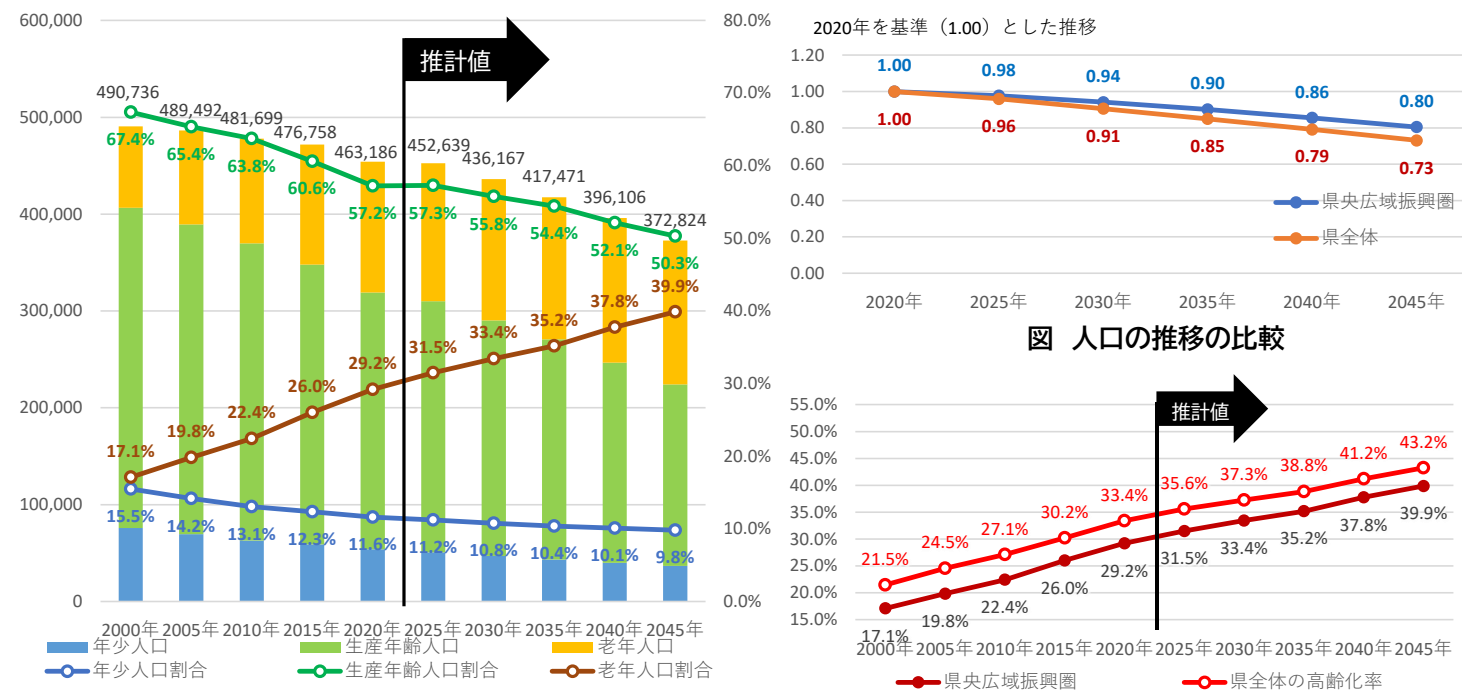


図 当該広域振興圏の人口の推移

図 高齢化率の推移の比較

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

1-2 転入・転出による人口動態

当該広域振興圏は、転出者数が転入者数を上回る転出超過（社会減）の状態が続いている。社会減の人数は、2018(平成 30)年から 2021 (令和 3) 年にかけて減少していたが、2021(令和 3)年から 2022(令和 4)年にかけて約 800 人増加している。

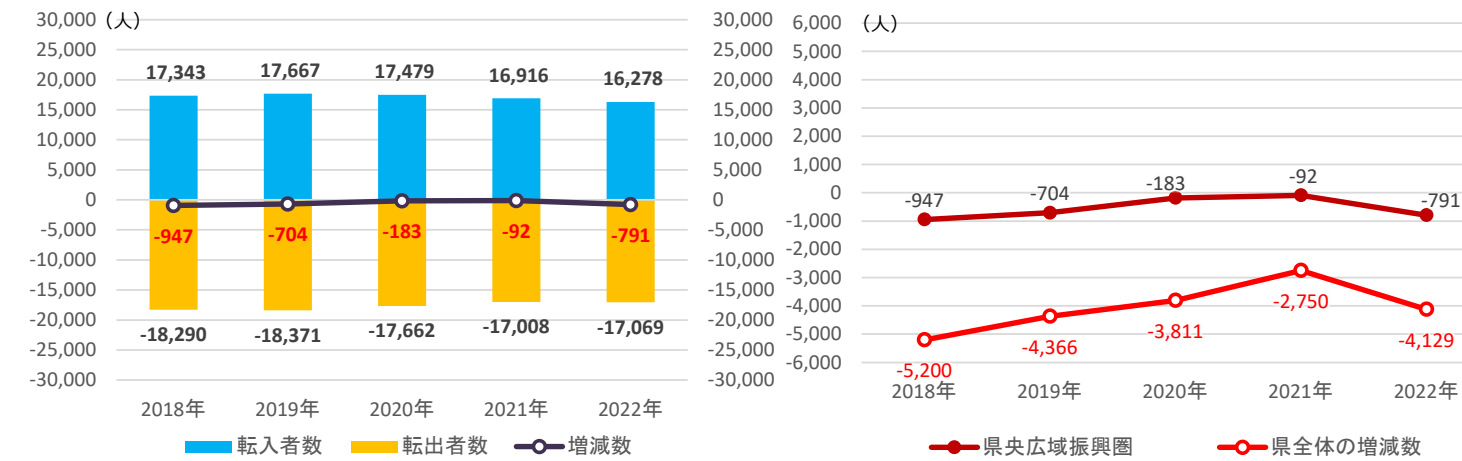


図 当該広域振興圏の転入・転出の推移

図 転入・転出の推移の比較

出典：岩手県人口移動報告年報

2. 市町村間の流動状況

2-1 通勤流動

市町村を跨ぐ通勤流動は、盛岡市への流動が多くみられ、市街地が連坦して形成される滝沢市と矢巾町から 35～50% (約 18,000 人)、雫石町と紫波町から約 25% (約 6,500 人)、八幡平市と岩手町から 10～20% (約 2,900 人) の流動が発生している。

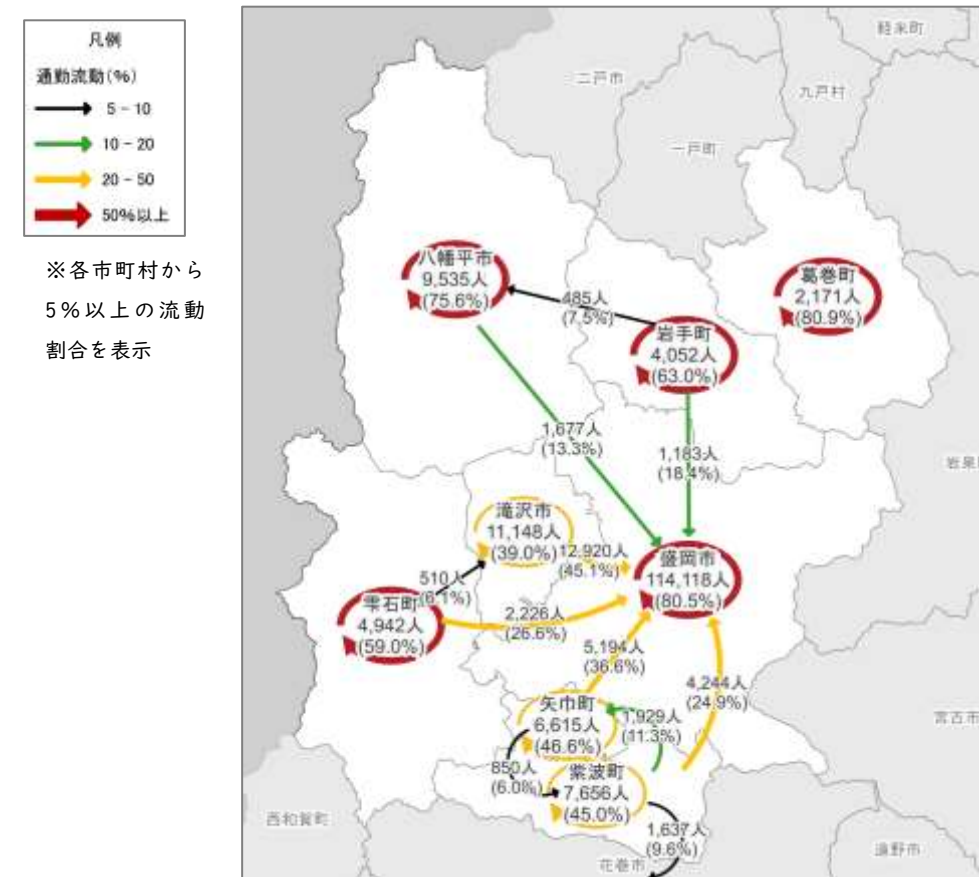


図 通勤流動(2020(令和 2)年) 出典：国勢調査

表 市町村間の通勤流動数(2020(令和 2)年)

従業地・通学地→居住地↓		盛岡市	八幡平市	滝沢市	雫石町	葛巻町	岩手町	紫波町	矢巾町
盛岡 広域 振興 局	盛岡市	114,118	1,220	5,746	1,418	84	641	1,705	7,055
	八幡平市	1,677	9,535	495	46	5	410	18	66
	滝沢市	12,920	871	11,148	963	24	227	172	809
	雫石町	2,226	48	510	4,942	4	8	50	190
	葛巻町	92	18	17	4	2,171	93	1	4
	岩手町	1,183	485	232	19	76	4,052	17	37
	紫波町	4,244	15	170	60	3	13	7,656	1,929
	矢巾町	5,194	40	196	90	2	21	850	6,615

出典：国勢調査

2-2 通学流動

市町村を跨ぐ通学流動は、高校立地数が多い盛岡市への流動が多く、滝沢市と矢巾町、紫波町、雫石町から25～55%（約2,900人）の通学流動が発生している。

また、盛岡市に対しては、広域振興圏内だけではなく、花巻市や北上市、奥州市をはじめ、広域振興圏外からも多数の流動あり、広域振興圏内外の広域的な通学流動が発生している。

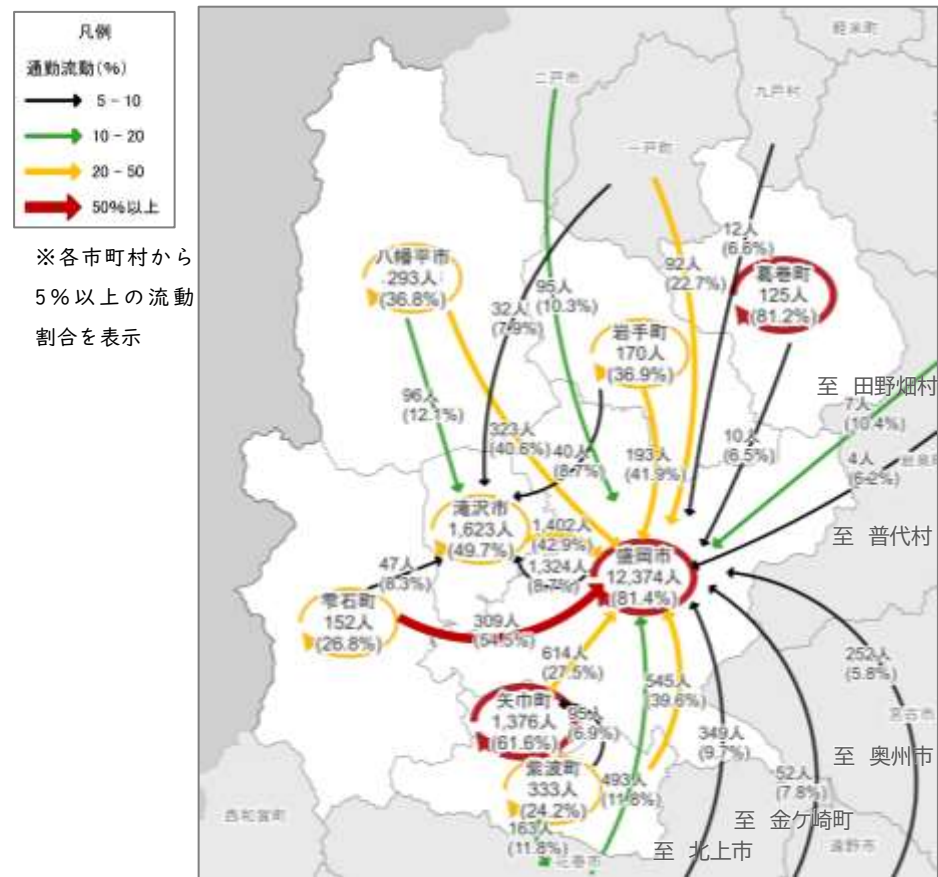


図 通学流動(2020(令和2)年) 出典：国勢調査

表 市町村間の通学流動数(2020(令和2)年)

従業地・通学地→居住地↓		盛岡市	八幡平市	滝沢市	雫石町	葛巻町	岩手町	紫波町	矢巾町
盛岡広域振興局	盛岡市	12,374	8	1,324	5	1	8	73	561
	八幡平市	323	293	96			1		30
	滝沢市	1,402	2	1,623	2		4	3	71
	雫石町	309		47	152				19
	葛巻町	10		1		125			
	岩手町	193	1	40			170		16
	紫波町	545		67				333	95
	矢巾町	614		87				59	1,376

出典：国勢調査

2-3 通勤・通学時の移動手段

当該広域振興圏の通勤・通学時の移動手段は、乗合バス等の占める割合が6.8%（県全体3.8%）、鉄道の占める割合が5.7%（県全体4.3%）であり、公共交通の占める割合が比較的高い。

また、徒歩・自転車が20.4%を占めており、他の広域振興圏に比べて高いことも特徴的である。

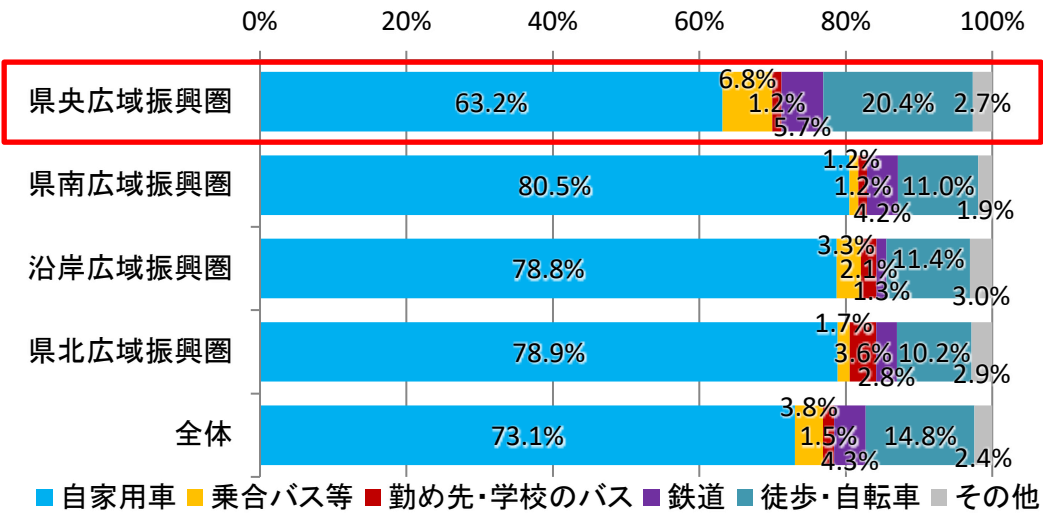


図 通勤・通学時の移動手段(2020(令和2)年) 出典：国勢調査

3. 公共交通の運行状況

3-1 広域的な公共交通の運行状況

当該広域振興圏では、地域間幹線系統（国庫補助路線）19 系統や県単補助路線 5 系統などの補助対象系統のほか、補助を受けない路線バスが運行している。

また、鉄道は、東北新幹線をはじめ、JR 東北本線・花輪線・田沢湖線・山田線と IGR いわて銀河鉄道 の 5 路線が運行している。

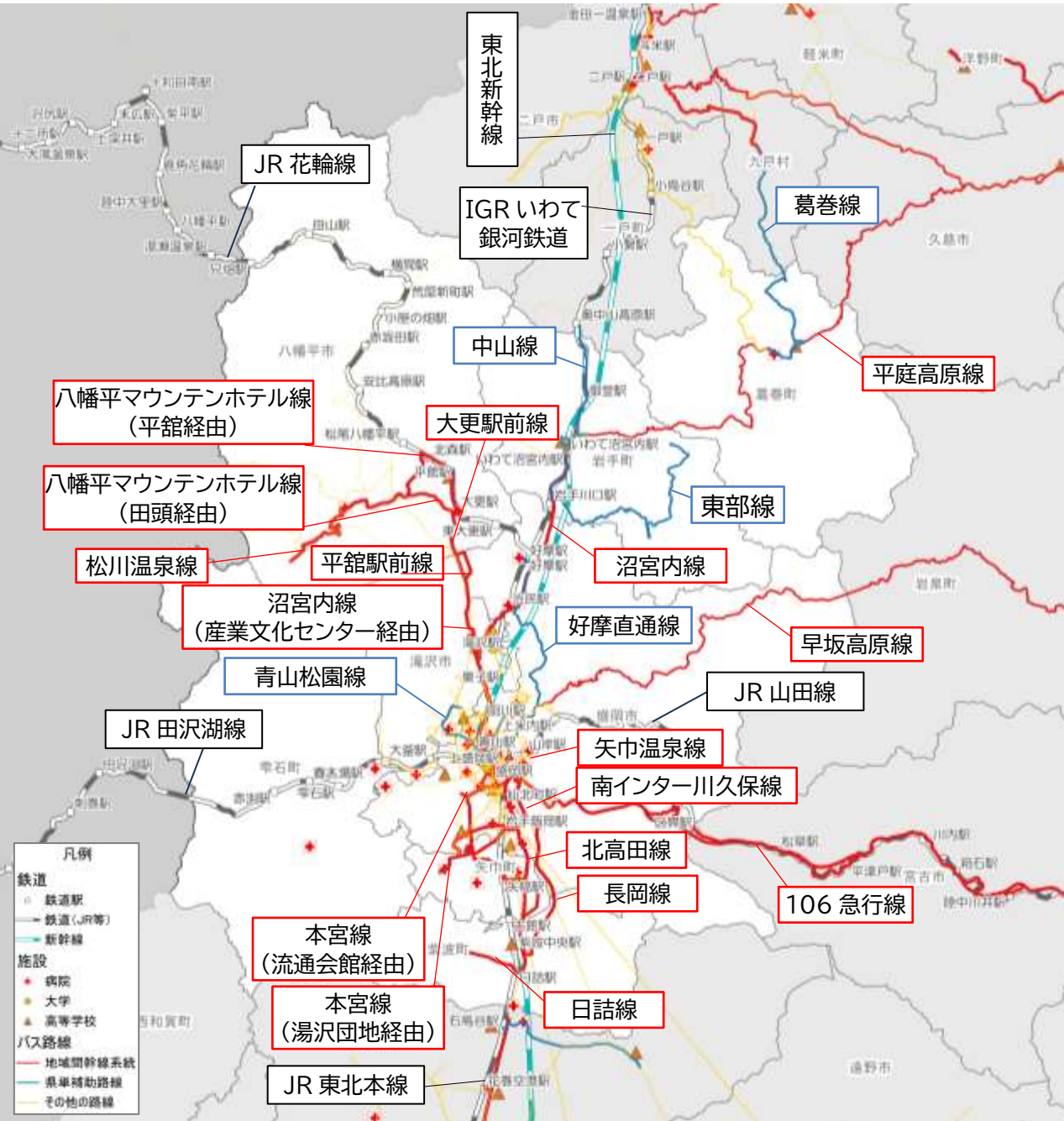


図 広域的な公共交通の運行状況(2023(令和 5)年度時点)

3-2 地域間幹線系統(国庫補助路線)の運行状況

当該広域振興圏の地域間幹線系統は 19 系統であり、そのうち 5 系統が 2022（令和 4）年度実績において輸送量 15.0 を下回っているなど、今後補助要件を満たさなくなることが懸念される。

輸送量 15.0 を満たしているものの、輸送量 20 を下回る系統が 8 系統あり、今後、平均乗車密度や運行回数が減少した場合、輸送量 15.0 を下回ることが懸念される。

また、16 系統が平均乗車密度 5.0 を下回り、密度カットの対象となっている。

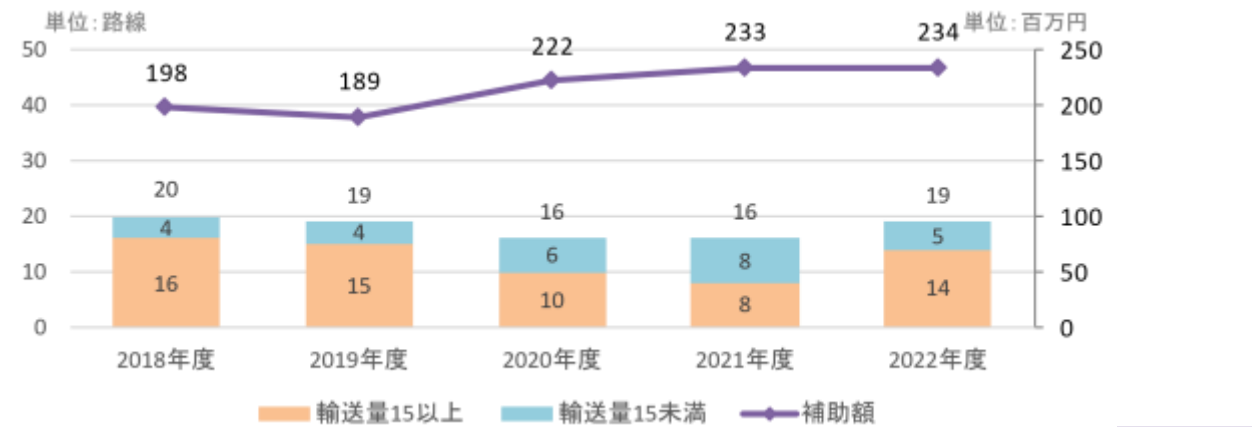


図 地域間幹線系統数及び補助額の推移 出典：国庫補助実績資料（岩手県）

表 地域間幹線系統の運行状況一覧(2022(令和4)年度時点)

No.	路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車 密度	輸送量		
						2022年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	繁鷲宿	岩手県交通	盛岡バスセンター	鶯宿温泉	盛岡市、滝沢市、雫石町	3.5	4.3	15.2	12.4	15.0
2	長岡	岩手県交通	盛岡駅前	日詰駅前	盛岡市、紫波町	6.2	3.2	20.4	20.4	19.8
3	本宮(流通会館経由)	岩手県交通	矢巾営業所	盛岡駅前	盛岡市、矢巾町	4.3	3	15.5	16.3	12.9
4	本宮(湯沢団地経由)	岩手県交通	矢巾営業所	盛岡駅前	盛岡市、矢巾町	6.2	3.1	19.2	19.8	19.2
5	北高田	岩手県交通	矢巾営業所	盛岡駅前	盛岡市、矢巾町	2.8	5	14.5	13.4	14.0
6	南インター川久保	岩手県交通	矢巾営業所	盛岡駅前	盛岡市、矢巾町	4.2	3.9	15.0	13.3	16.3
7	矢巾温泉	岩手県交通	矢巾温泉	盛岡駅前	盛岡市、矢巾町	2.9	4.2	11.7	11.4	12.1
8	雫石	岩手県交通	盛岡バスセンター	雫石営業所	盛岡市、滝沢市、雫石町	11.6	3.6			41.7
9	日詰	岩手県交通	盛岡バスセンター	雫石営業所	盛岡市、紫波町、矢巾町	16.4	4.3			70.5
10	沼宮内(産業文化センター経由)	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	沼宮内営業所	盛岡市、滝沢市、岩手町	4.4	4.6	22.4	21.5	20.2
11	平館駅前	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	平館駅前	盛岡市、八幡平市、滝沢市	4	4.2	12.9	11.5	16.8
12	八幡平マウンテンホテル(田頭経由)	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	八幡平マウンテンホテル	盛岡市、八幡平市、滝沢市	5.5	4	26.6	24.6	22.0
13	松川温泉	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	松川温泉	盛岡市、八幡平市、滝沢市	3	5.3	12.6	12.3	15.9
14	沼宮内	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	沼宮内営業所	盛岡市、滝沢市、岩手町	5.4	4.5	24.8	24.3	24.3
15	八幡平マウンテンホテル(平館経由)	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	八幡平マウンテンホテル	盛岡市、八幡平市、滝沢市	3.3	3.7	19.0	15.1	12.2
16	大更駅前	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	大更駅前	盛岡市、八幡平市、滝沢市	3.3	4.1	11.7	13.1	13.5
17	106急行	岩手県北自動車	宮古駅前	盛岡駅	盛岡市、宮古市	4.3	8			34.4
18	早坂高原	ジェイアールバス東北	盛岡駅前	龍泉洞前	盛岡市、岩泉町	4	3.8	14.4	10.5	15.2
19	平庭高原	ジェイアールバス東北	盛岡駅	久慈駅	盛岡市、久慈市、滝沢市、葛巻町、岩手町	4.9	3.5	17.1	15.1	17.1

※最終的には 2023（令和 5）年度の数値を反映予定

3-3 県単補助路線の運行状況

2022(令和4)年度の県単補助の系統数は5系統である。
全体的に平均乗車密度が減少傾向にあり、特に東部線(2020(令和2)年度:3.6→2022(令和4)年度:1.9)と好摩直通線(2020(令和2)年度:2.6→2022(令和4)年度:0.8)が大きく減少している。

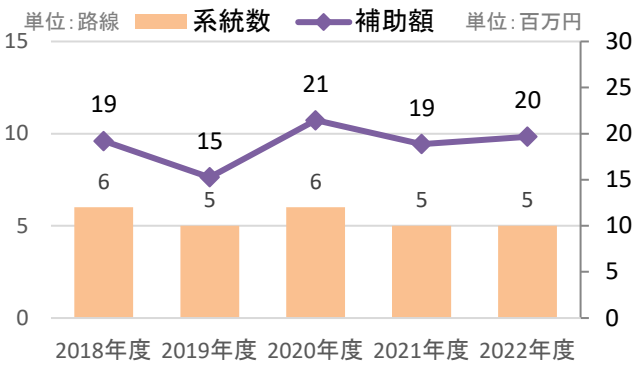


図 県単補助路線及び補助額の推移
出典：県単補助実績資料（岩手県）

表 県単補助路線の運行状況一覧(2022(令和4)年度時点)

路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車密度			
					2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	
青山松園	岩手県交通	滝沢営業所	松園バスターミナル	盛岡市、滝沢市	2.0	2.5	2.4	2.3	
中山	岩手県北自動車	いわて沼宮内駅前	中山	岩手町、一戸町	2.5	1.7	2.2	1.3	
葛巻	岩手県北自動車	ふれあい広場	葛巻中学校前	葛巻町、九戸村	2.0	1.6	1.2	1.3	
東部	岩手県北自動車	陸中岩瀬張	いわて沼宮内駅前	盛岡市、岩手町	1.0	3.6	2.3	1.9	
好摩直通	岩手県北自動車	盛岡バスセンター	好摩駅	盛岡市	2.0	2.6	2.1	0.8	

※最終的には2023(令和5)年度の数値を反映予定

3-4 地域内フィーダー系統の運行状況

当該広域振興圏では唯一紫波町が地域内フィーダー系統補助を受けており、デマンド型乗合バス「しわまる号」が対象となっている。

補助要件である地域間幹線系統との接続については、紫波営業所などにおいて日詰線と接続をしている。日詰線については2022(令和4)年度実績の輸送量が70.5であるなど、比較的安定的な輸送量を確保しており、現時点での地域間幹線系統の要件未達、及び地域内フィーダー系統の要件未達の可能性は低い。

表 地域内フィーダー系統の運行状況一覧(2023(令和5)年度時点)

市町村名	路線名	運行主体	接続する地域間幹線系統	接続場所
紫波町	デマンド型乗合バス「しわまる号」	紫波町	日詰線（輸送量 70.5）※	紫波営業所 等

※2022(令和4)年度実績

出典：市町村アンケート調査（2023.9.8時点）

3-5 自治体別の地域内公共交通の運行状況及び交付額の推移

有償運送に対する交付額について、路線バスに対して、八幡平市では3,500万円以上、葛巻町、岩手町では1,000万円以上を補助している。また、市町村営バスに対して八幡平市では1,500万円以上を負担しているほか、バス事業者への委託費用として、滝沢市では1億3,000万円以上を負担している。
無償運送について、盛岡市・滝沢市・葛巻町では患者輸送バスに対する負担をしている。

表 自治体別の域内交通の運行状況及び交付額の推移 2021(令和3)年度
上段:補助・運行路線数(単位:路線)
下段:実質負担額(単位:千円)

市町村名	有償運送					無償運送				合計
	路線バスへの補助	市町村営バス(自家用車によるもの)	デマンド交通	バス事業者への委託	その他	スクールバス	患者輸送バス	福祉バス	その他	
盛岡市	0	0	0	0	0	9	19	0	0	28
八幡平市	7	7	3	0	0	16	0	0	0	33
滝沢市	38,495	18,393	3,249	0	0	60,200	0	0	0	120,337
雫石町	2	0	0	3	0	0	4	0	0	9
葛巻町	528	0	0	133,260	0	0	134	0	0	133,921
岩手町	0	0	0	9	0	12	0	0	0	21
紫波町	0	0	0	48,048	0	54,338	0	0	0	102,386
矢巾町	2	0	0	1	0	6	9	0	0	18
八幡平市	11,207	0	0	3,080	0	16,999	24,477	0	0	55,762
岩手町	9	4	3	2	0	8	0	0	0	26
紫波町	14,616	4,478	475	6,237	0	20,022	0	0	0	45,828
矢巾町	1	0	1	0	0	7	0	0	0	9
八幡平市	284	0	23,645	0	0	35,526	0	0	0	59,455
岩手町	0	0	2	2	0	4	0	0	0	8
矢巾町	0	0	1,450	8,226	0	1,826	0	0	0	11,502

出典：2022(令和4)年度自治体バス等の運行状況調査

3-6 計画の策定状況

当該広域振興圏では8自治体中7自治体で公共交通に関する計画を策定しており、現計画の期限終了後、次期計画についても策定を予定している。

なお、盛岡市・滝沢市・矢巾町については、3市町が連携した盛岡都市圏における公共交通計画の策定を予定している。

表 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和5)年6月時点

市町村名	地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況		
	①区分	②策定(予定)時期	備考
盛岡市	策定済み		
八幡平市	策定済み		
滝沢市	策定済み		
雫石町	策定済み		
葛巻町	未策定	未定	
岩手町	策定済み		
紫波町	策定済み		
矢巾町	策定済み		

出典：各市町村からのヒアリング結果等

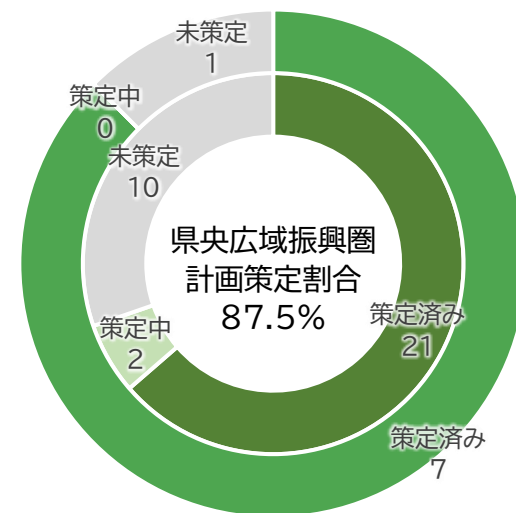


図 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和5)年6月時点
(内側:県全体、外側:当該広域振興圏)

■県南広域振興圏(花巻市・北上市・遠野市・一関市・奥州市・西和賀町・金ケ崎町・平泉町)

1. 人口の推移等

1-1 人口の推移

2020(令和 2)年現在の人口は約 46 万 4 千人であり、現在まで減少傾向にあるが、2025 (令和 7) 年以降も減少する見込みである。なお、2045 (令和 27) 年の対 2020 (令和 2) 年比の当該広域振興圏の減少率は▲28%であり、県全体の減少率▲27%に比べて 1 ポイント高い見込みである。

高齢化率は現在まで増加傾向にあるが、2025 (令和 7) 年以降も増加する見込みであり、2045(令和 27) 年時点では、県全体が 43.2%であるのに対し、43.8%と 0.6 ポイント高い見込みである。

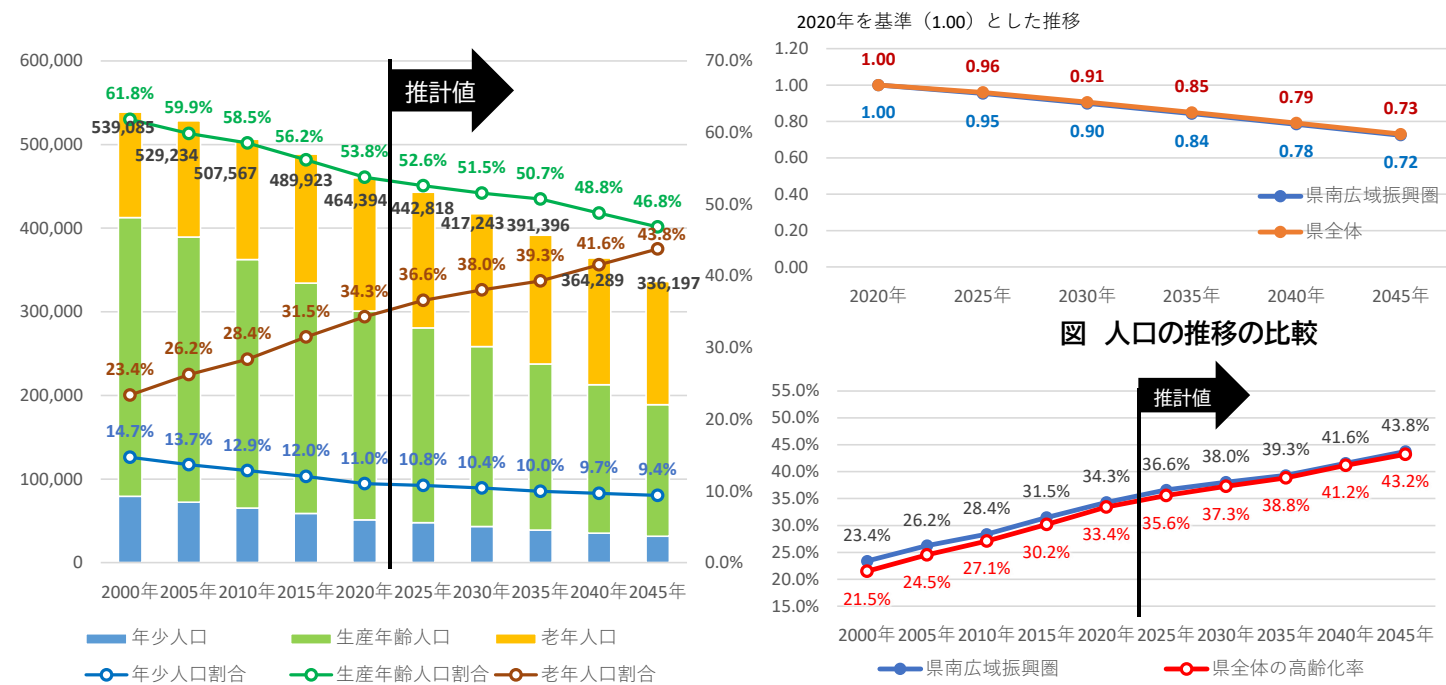
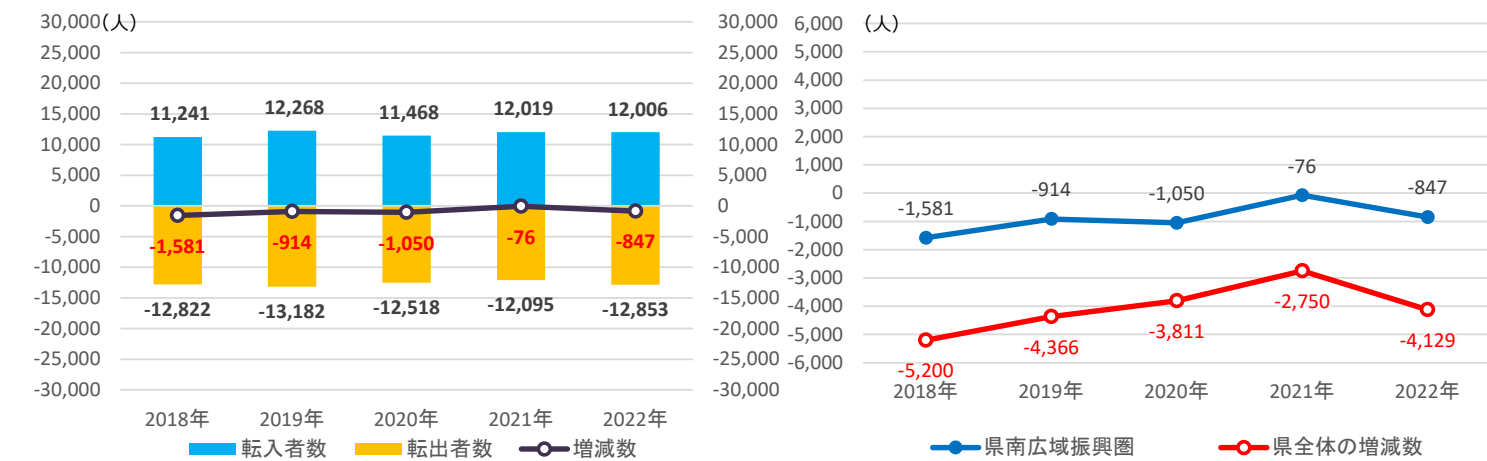


図 当該広域振興圏の人口の推移

1-2 転入・転出による人口動態

当該広域振興圏は、転出者数が転入者数を上回る転出超過(社会減)の状態が続いている。社会減の人数は、2018(平成 30)年から 2021 (令和 3) 年にかけて減少傾向にあったが、2021(令和 3)年から 2022(令和 4)年にかけて約 770 人増加している。



2. 市町村間の流動状況

2-1 通勤流動

市町村を跨ぐ通勤流動は、花巻市と北上市間で5~15%(約 9,100 人)の流動があり、北上市に対しては、奥州市、金ケ崎町、西和賀町からも5~20%(約 5,100 人)の流動が発生している。

また、奥州市に対して、金ケ崎町と平泉町から15~25%(約 2,300 人)の流動があるほか、平泉町から一関市へ約 35%(約 1,300 人)の流動が発生している。

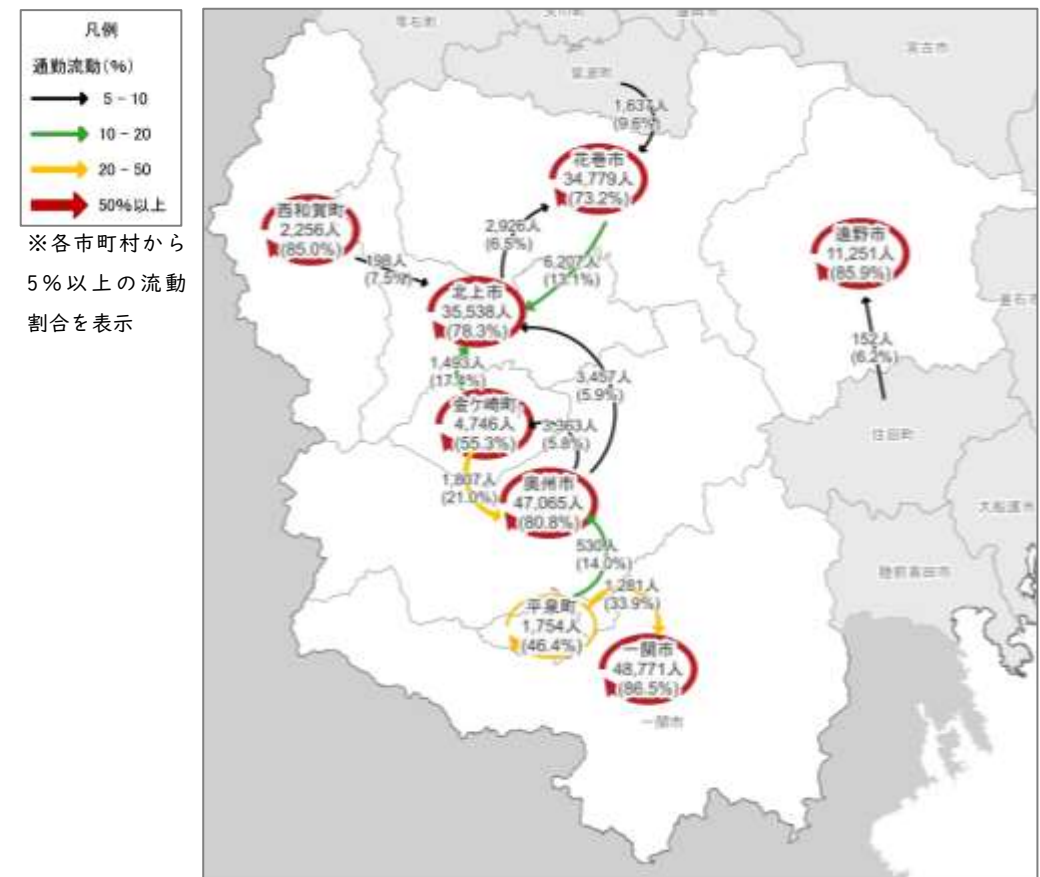


図 通勤流動 2020(令和 2)年 出典：国勢調査

表 市町村間の通勤流動数(2020(令和 2)年)

従業地・通学地→居住地↓		花巻市	北上市	遠野市	奥州市	一関市	西和賀町	金ケ崎町	平泉町
県南広域振興局	花巻市	34,779	6,207	285	552	129	22	392	6
	北上市	2,926	35,538	128	1,984	193	123	2,204	15
	遠野市	519	283	11,251	71	13	1	33	2
	奥州市	429	3,457	42	47,065	1,758	10	3,363	403
	一関市	78	291	7	1,981	48,771	1	167	1,003
	西和賀町	22	198	1	9		2,256	6	
	金ケ崎町	117	1,493	8	1,807	69	3	4,746	15
	平泉町	9	42		530	1,281		37	1,754

出典：国勢調査

2-2 通学流動

市町村を跨ぐ通学流動は、花巻市に対して北上市、遠野市、西和賀町から5～15%（約520人）、一関市に対して奥州市と平泉町から5～50%（510人）、北上市に対して花巻市と金ケ崎町、西和賀町から5～20%（約400人）、奥州市に対して金ケ崎町、平泉町から20～30%（約240人）、の流動が発生している。

また、花巻市に対しては、広域振興圏内だけではなく、紫波町などの広域振興圏外からの流動もあり、広域振興圏内外の広域的な通学流動が発生している。

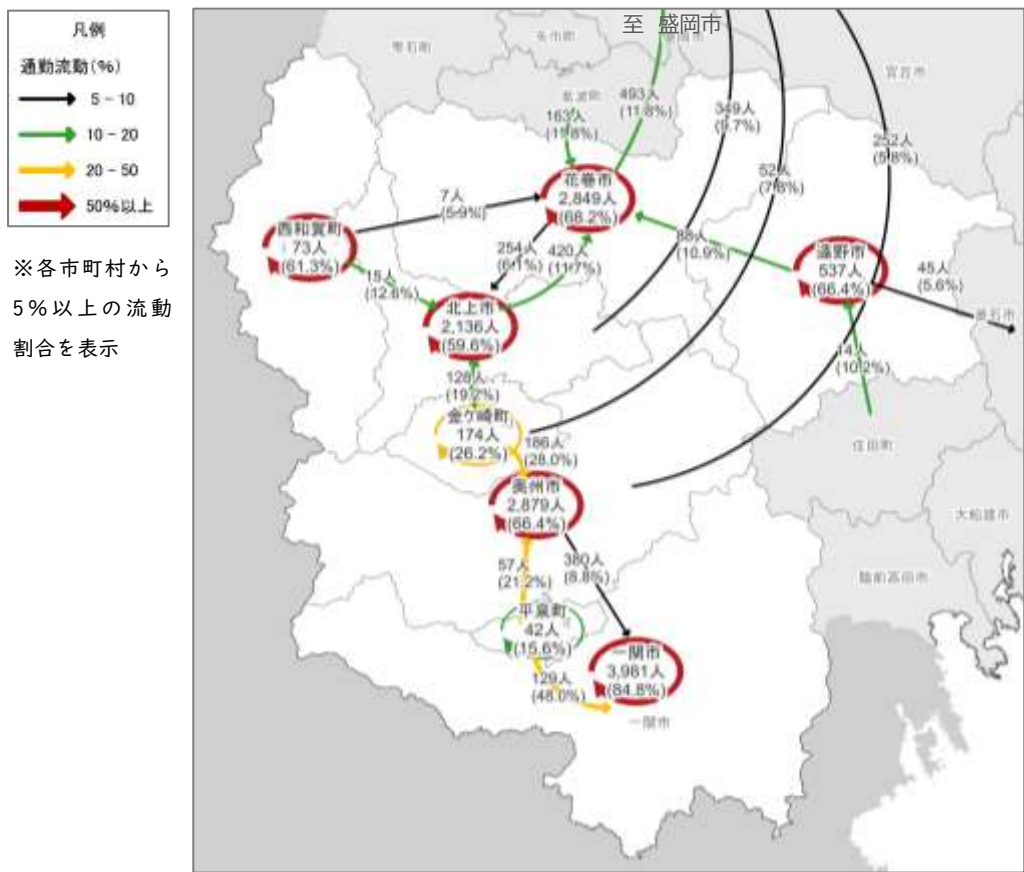


図 通学流動 2020(令和2)年 出典：国勢調査

表 市町村間の通学流動数(2020(令和2)年)

従業地・通学地→居住地↓		花巻市	北上市	遠野市	奥州市	一関市	西和賀町	金ケ崎町	平泉町
県南広域振興局	花巻市	2,849	254	6	18	78	1		
	北上市	420	2,136	8	70	133	35	12	
	遠野市	88	36	537	2	8	1		
	奥州市	78	204		2,879	380		84	
	一関市	18	29	3	73	3,981	1	2	
	西和賀町	7	15			2	73		
	金ケ崎町	23	128		186	38		174	
	平泉町	1	6		57	129			42

出典：国勢調査

2-3 通勤・通学時の移動手段

当該広域振興圏の通勤・通学時の移動手段は、乗合バス等の占める割合が他の広域振興圏に比べて最も低い1.2%となっている。一方、自家用車の占める割合80.5%と、他の広域振興圏に比べて最も高く、県全体73.1%を7.4ポイント上回る。

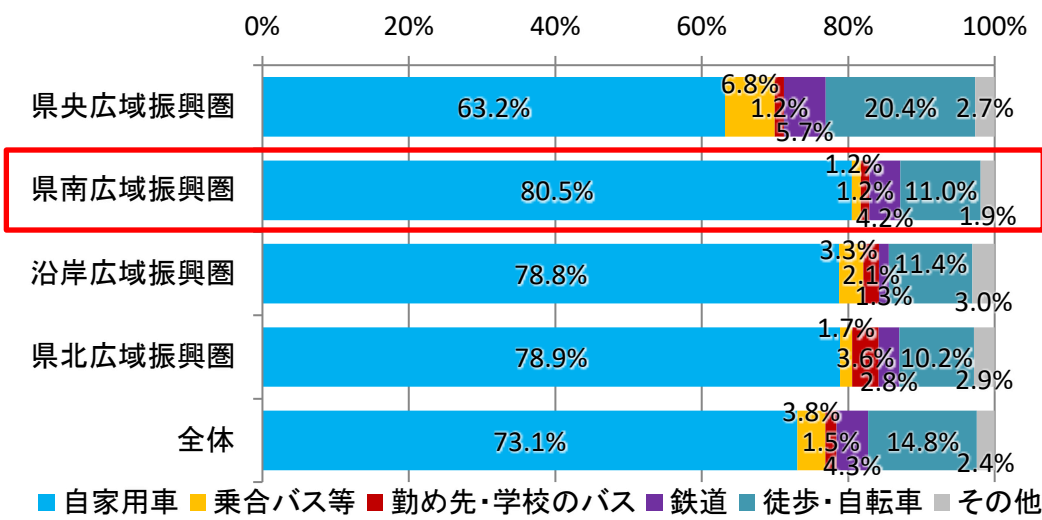


図 通勤・通学時の移動手段 2020(令和2)年 出典：国勢調査

3. 公共交通の運行状況

3-1 広域的な公共交通の運行状況

当該広域振興圏では、地域間幹線系統（国庫補助路線）10 系統や県単補助路線 5 系統などの補助対象系統のほか、補助を受けない路線バスが運行している。

また、鉄道は、東北新幹線をはじめ、JR 東北本線・北上線・釜石線・大船渡線の 4 路線が運行している。

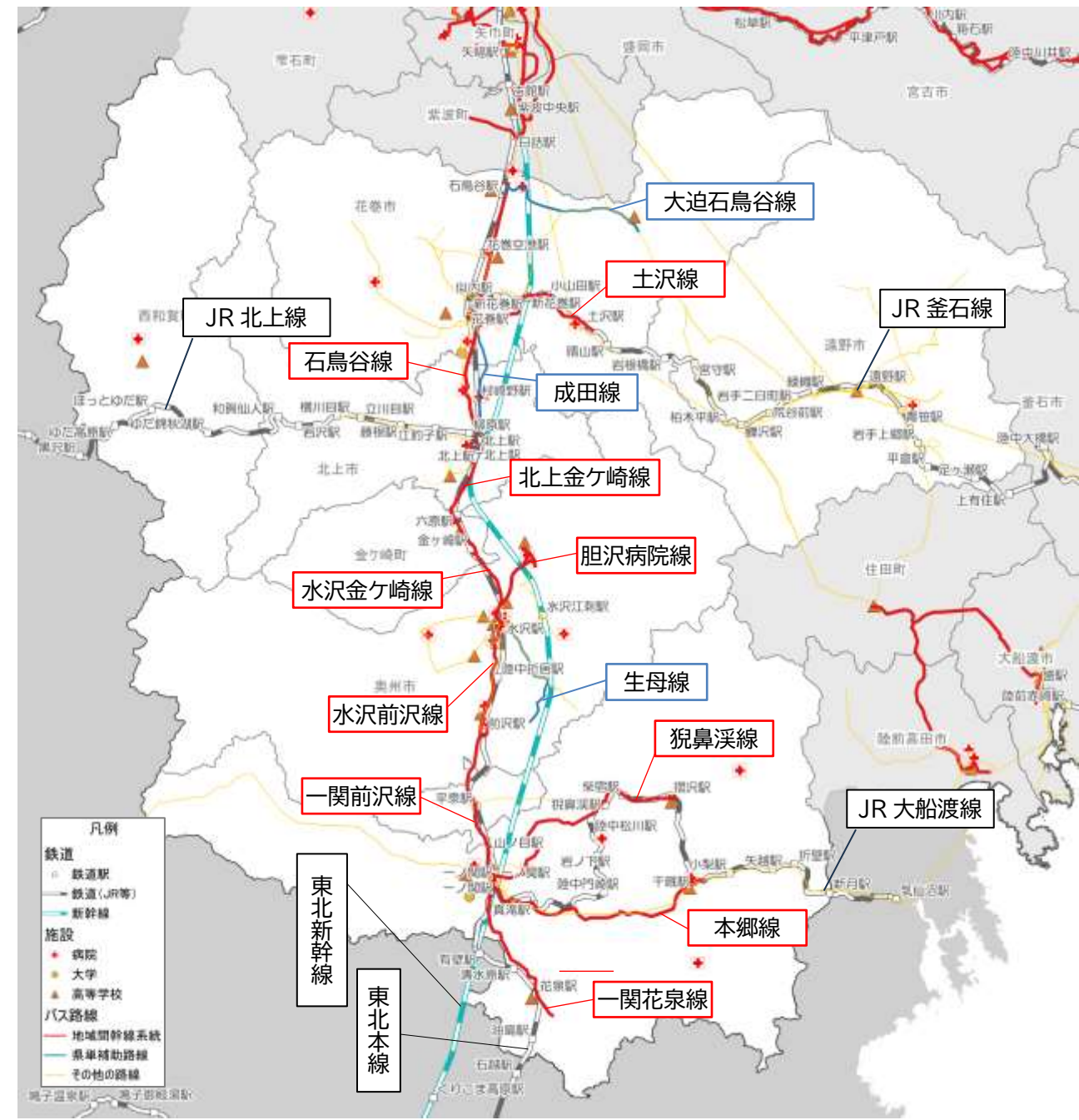


図 広域的な公共交通の運行状況 2023(令和 5)年度時点

3-2 地域間幹線系統(国庫補助路線)の運行状況

当該広域振興圏の地域間幹線系統は 10 系統であり、うち 6 系統が 2022(令和 4)年度実績において輸送量 15.0 を下回っており、今後補助要件を満たさなくなることが懸念される。

輸送量 15.0 を満たしているものの、輸送量 20 を下回る系統が 1 系統あり、今後、平均乗車密度や運行回数が減少した場合、輸送量 15.0 を下回ることが懸念される。

また、10 系統全てが平均乗車密度 5.0 を下回り、密度カットの対象となっている。

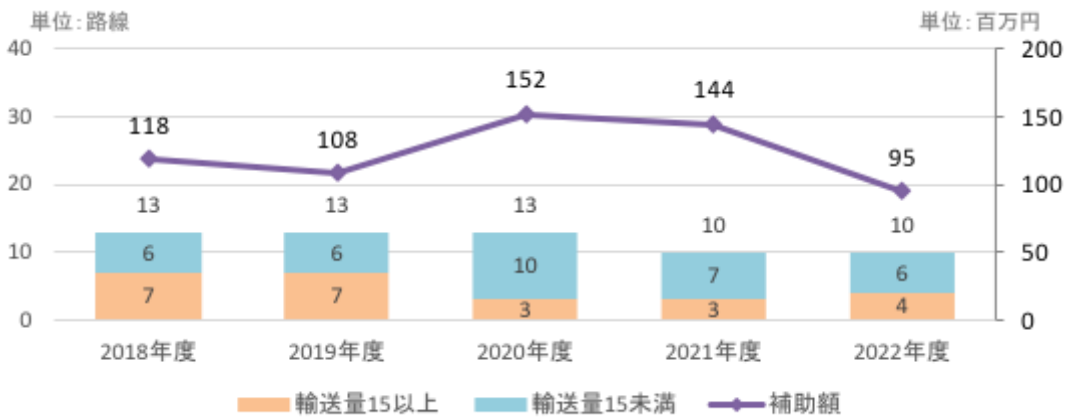


図 地域間幹線系統数及び補助額の推移

出典：国庫補助実績資料
(岩手県)

輸送量15～20
輸送量15未満
平均乗車密度5未満

表 地域間幹線系統の運行状況一覧 2022(令和4)年度時点

No.	路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車 密度	輸送量		
								2022年度	2021年度	2020年度
1	石鳥谷	岩手県交通	北上駅前	志和口	花巻市、北上市	8.9	2.5	27.2	21.3	22.2
2	土沢	岩手県交通	イトーヨーカドー	雲南桜	花巻市	6.9	2.2	7.5	6.9	15.1
3	一関花泉	岩手県交通	竹山	涌津下町	一関市	4.6	0.9	8.7	4.1	4.1
4	狛鼻溪	岩手県交通	一関駅前	摺沢駅前	一関市	5.8	1.1	7.9	7.2	6.3
5	胆沢病院	岩手県交通	江刺バスセンター	胆沢病院	奥州市	11.5	3.3	29.9	29.9	37.9
6	水沢前沢	岩手県交通	水沢駅前	イオン前沢店	奥州市	9.2	1.3	12.8	11.9	11.9
7	一関前沢	岩手県交通	一関駅前	イオン前沢店	一関市、奥州市、平泉町	13.9	1.7	22.0	19.4	23.6
8	北上金ヶ崎	岩手県交通	北上駅前	金ヶ崎町役場	北上市、金ヶ崎町	6.2	1.4	6.8	4.9	8.6
9	水沢金ヶ崎	岩手県交通	胆沢病院	免許センター	奥州市、金ヶ崎町	7.6	1.5	11.2	10.6	11.4
10	本郷	岩手県交通	一関営業所	千蔵バスターミナル	一関市	6.2	2	12.8	10.8	12.4

※最終的には 2023（令和 5）年度の数値を反映予定

3-3 県単補助路線の運行状況

2022(令和4)年度の県単補助路線数は3系統である。
特に生母線の平均乗車密度が大きく減少している。
(2020(令和2)年度:3.2→2022(令和4)年度:0.8)

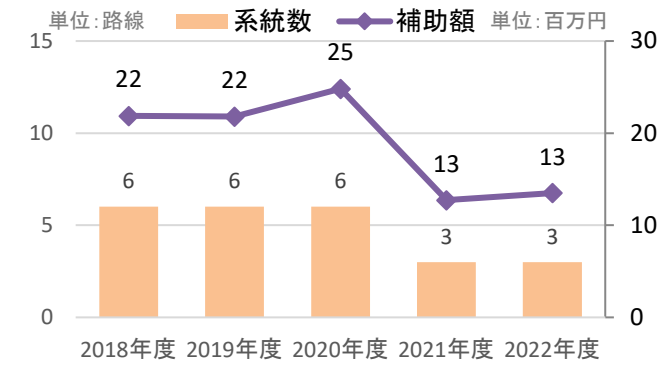


図 県単補助路線及び補助額の推移
出典：県単補助実績資料（岩手県）

表 県単補助路線の運行状況一覧 2022(令和4)年度時点

路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車密度		
					2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
成田	岩手県交通	花巻北高校前	北上駅前	花巻市、北上市	3.0	1.8	0.9	1.4
大迫石鳥谷	岩手県交通	大迫中学校前	石鳥谷駅前	花巻市	4.3	1.1	1.5	1.1
生母	岩手県交通	胆沢病院	生母	奥州市	2.5	3.2	1.6	0.8

※最終的には2023(令和5)年度の数値を反映予定

3-4 地域内フィーダー系統の運行状況

花巻市・北上市・一関市・奥州市では地域内フィーダー系統補助を受けている。
補助要件である地域間幹線系統との接続について、北上市では石鳥谷線、北上金ヶ崎線と接続しているが、このうち北上金ヶ崎線については特例が適用されて補助対象となっているものの、輸送量8.6と輸送量要件を下回っている。
また、石鳥谷線は輸送量22.2であり、今後、運行回数や平均乗車密度の減少などにより補助要件を下回り、地域間幹線系統補助の対象外となった場合、地域内フィーダー系統補助が受けられなくなる可能性がある。
奥州市においても、地域内フィーダー系統が接続する地域間幹線系統の水沢前沢線、水沢金ヶ崎線ともに輸送量要件を下回っており、今後、運行回数や平均乗車密度の減少などにより補助要件を下回り、地域間幹線系統補助の対象外となった場合、地域内フィーダー系統補助が受けられなくなる可能性がある。

表 地域内フィーダー系統の運行状況一覧 2023(令和5)年度時点

市町村名	路線名	運行主体	接続する地域間幹線系統	接続場所
花巻市	大迫地域予約乗合バス、 西南地域予約乗合バス	花巻市	大迫花巻線、大迫石鳥谷線、 JR東北本線	大迫バスターミナル停留所、花巻駅
北上市	横川目線	北上市地域公共交通会議	石鳥谷線（輸送量22.2）※、 北上金ヶ崎線（輸送量8.6）※	まちなかターミナル、北上駅
一関市	室根地域デマンド型乗合タクシー	(有)室根タクシー	JR大船渡線	矢越駅
奥州市	水沢コミュニティバス	奥州市	水沢前沢線（輸送量11.9）※、 水沢金ヶ崎線（輸送量11.4）※	水沢駅通りバス停

※2022(令和4)年度実績

出典：市町村アンケート調査（2023.9.8時点）

3-5 自治体別の地域内公共交通の運行状況及び交付額の推移

有償運送に対する交付額について、花巻市と遠野市、奥州市では、路線バスに対して5,000万円を上回る補助をしている。また、市町村営バスに対して一関市では2億円以上、奥州市では95,000千円以上、西和賀町では3,000万円以上を負担している。
無償運送について、奥州市では患者輸送バス及び福祉バス、西和賀町でも福祉バスに対する負担をしている。

表 自治体別の域内交通の運行状況及び交付額の推移 2021(令和3)年度
上段:補助・運行路線数(単位:路線)
下段:実質負担額(単位:千円)

市町村名	有償運送					無償運送				合計
	路線バスへの補助	市町村営バス (自家用車によるもの)	デマンド交通	バス事業者への委託	その他	スクールバス	患者輸送バス	福祉バス	その他	
花巻市	7 73,600	0	5 46,043	0	0	37 145,014	0	0	5 747	54 265,404
北上市	6 19,113	1 5,702	5 1,933	0	1 1,500	12 43,576	0	0	2 298	27 72,122
遠野市	20 53,957	6 11,080	2 8,304	0	0	25 65,896	0	0	0	53 139,236
一関市	11 29,512	86 213,517	9 36,679	0	0	84 262,179	0	0	0	190 541,887
奥州市	18 81,780	19 96,859	2 21,962	0	3 2,131	48 170,596	7 16,778	1 2,908	2 362	100 393,375
西和賀町	0 0	13 30,965	1 1,971	1 2,672	0	9 27,884	0	1 1,073	0	25 64,565
金ヶ崎町	6 17,000	0	0	0	0	9 36,057	0	0	1 514	16 53,571
平泉町	1 5,772	3 4,094	0	0	0	2 7,440	3 20	0	0	9 17,326

出典：2022(令和4)年度自治体バス等の運行状況調査

3-6 計画の策定状況

当該広域振興圏では8自治体中6自治体で計画を策定しており、奥州市では2023(令和5)年度中の地域公共交通計画の策定を予定している。

表 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和5)年6月時点

市町村名	地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況		
	①区分	②策定(予定)時期	備考
花巻市	策定済み		
北上市	策定済み		
遠野市	未策定	未定	
一関市	策定済み		
奥州市	策定済み	令和5年度中	※法定計画策定中
西和賀町	策定済み		
金ヶ崎町	策定済み		
平泉町	未策定	未定	

出典：各市町村からのヒアリング結果等

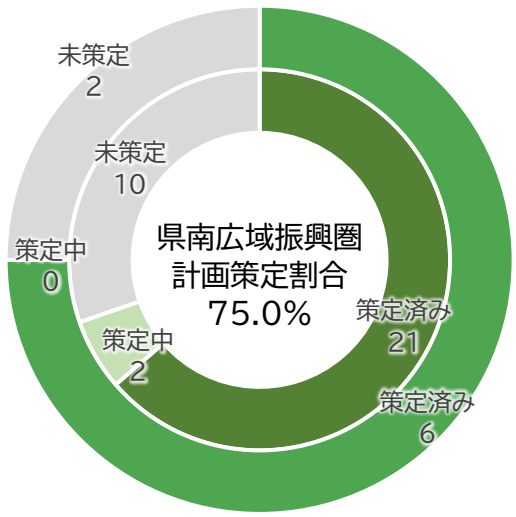


図 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和5)年6月時点
(内側:県全体、外側:当該広域振興圏)

■沿岸広域振興圏(宮古市・大船渡市・陸前高田市・釜石市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村)

1. 人口の推移等

1-1 人口の推移

2020(令和2)年現在の人口は約17万8千人であり、現在まで減少傾向にあるが、2025(令和7)年以降も減少する見込みである。なお、2045(令和27)年の対2020(令和2)年比の当該広域振興圏の減少率は▲37%であり、県全体の減少率▲27%に比べて10ポイント高い見込みである。

高齢化率は現在まで増加傾向にあるが、2025(令和7)年以降も増加する見込みであり、2045(令和27)年時点では、県全体が43.2%であるのに対し、49.0%と5.8ポイント高い見込みである。

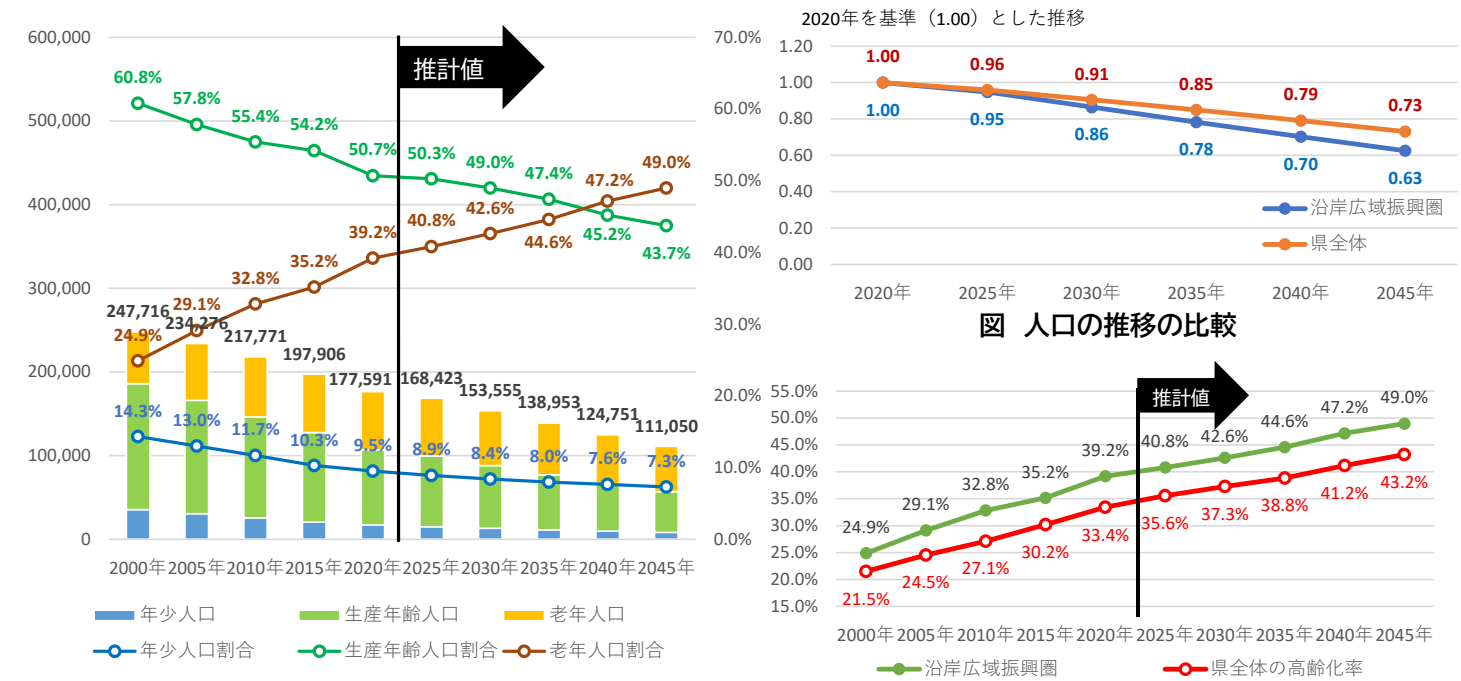


図 当該広域振興圏の人口の推移

図 人口の推移の比較

図 高年齢化率の推移の比較

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

1-2 転入・転出による人口動態

当該広域振興圏は、転出者数が転入者数を上回る転出超過（社会減）の状態が続いている。社会減の人数は、2018(平成30)年から2021(令和3)年にかけて減少傾向にあったが、2021(令和3)年から2022(令和4)年にかけて微増している。

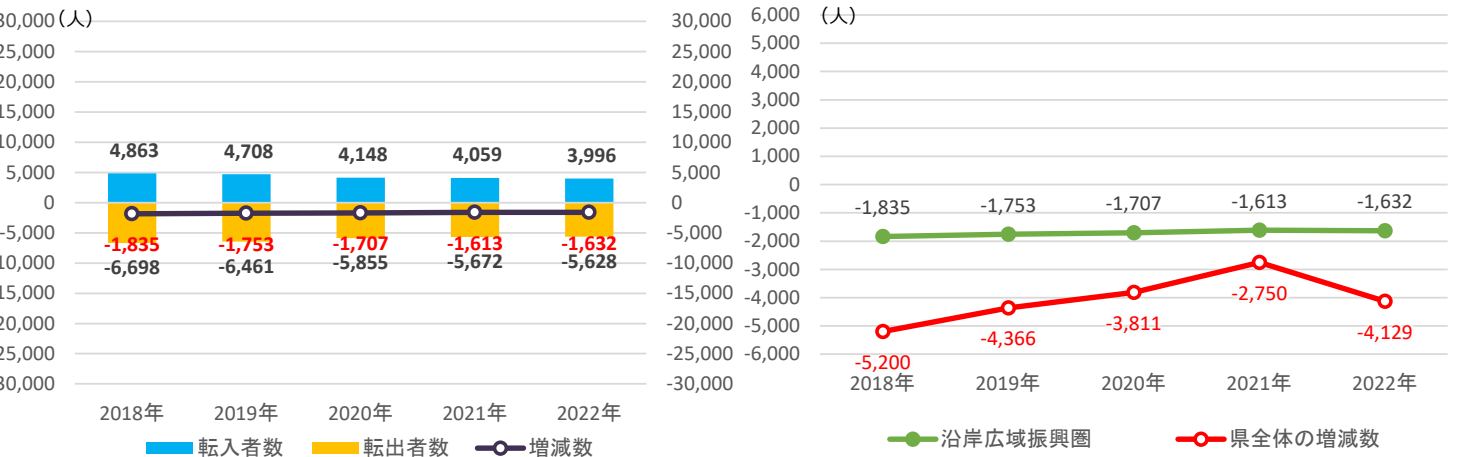


図 当該広域振興圏の転入・転出の推移

図 転入・転出の推移の比較

出典：岩手県人口移動報告年報

2. 市町村間の流動状況

2-1 通勤流動

市町村を跨ぐ通勤流動は、大船渡市と陸前高田市間で5～20%（約2,800人）の流動があり、釜石市へ大槌町と山田町から5～30%（約2,000人）、宮古市へ山田町から20%（約1,300人）の流動があるなど、人口規模の多い4市を中心とした流動が発生している。

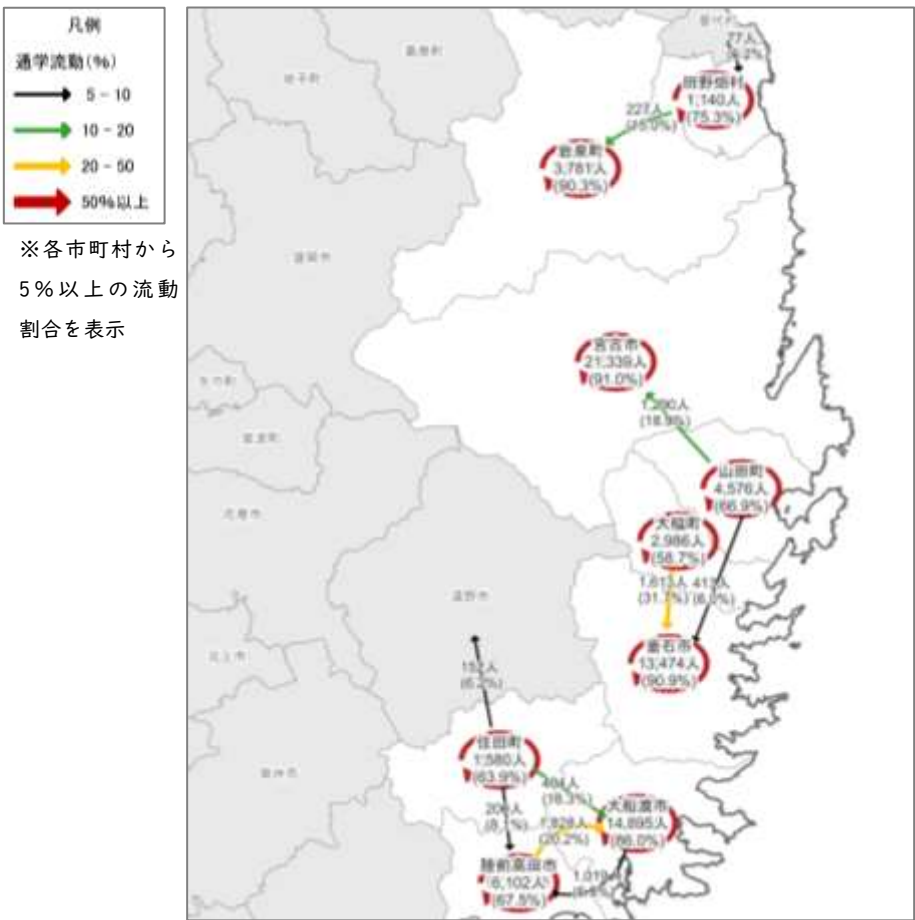


図 通勤流動 2020(令和2)年 出典：国勢調査

表 市町村間の通勤流動数(2020(令和2)年)

従業地・通学地→居住地↓		宮古市	大船渡市	陸前高田市	釜石市	住田町	大槌町	山田町	岩泉町	田野畑村
沿岸広域振興圏	宮古市	21,339	15	5	140	1	39	746	226	102
	大船渡市	25	14,895	1,019	423	208	11	21	2	
	陸前高田市	17	1,828	6,102	73	277	5		1	
	釜石市	76	200	22	13,474	5	486	72	3	
	住田町	5	404	200	48	1,580				
	大槌町	101	37	2	1,613		2,986	140	3	1
	山田町	1,290	22	3	413	1	281	4,576	9	6
	岩泉町	143	1		2			6	3,781	125
	田野畑村	40						6	227	1,140

出典：国勢調査

2-2 通学流動

市町村を跨ぐ通学流動は、大船渡市と陸前高田市間で5～30％（約260人）の流動があり、釜石市へ大槌町と遠野市（広域振興圏外）から5～30％（約130人）、宮古市へ山田町、大槌町、岩泉町、田野畑村から5～50％（約280人）の流動があるなど、通勤流動と同様、複数の高校が立地する4市を中心とした流動が発生している。

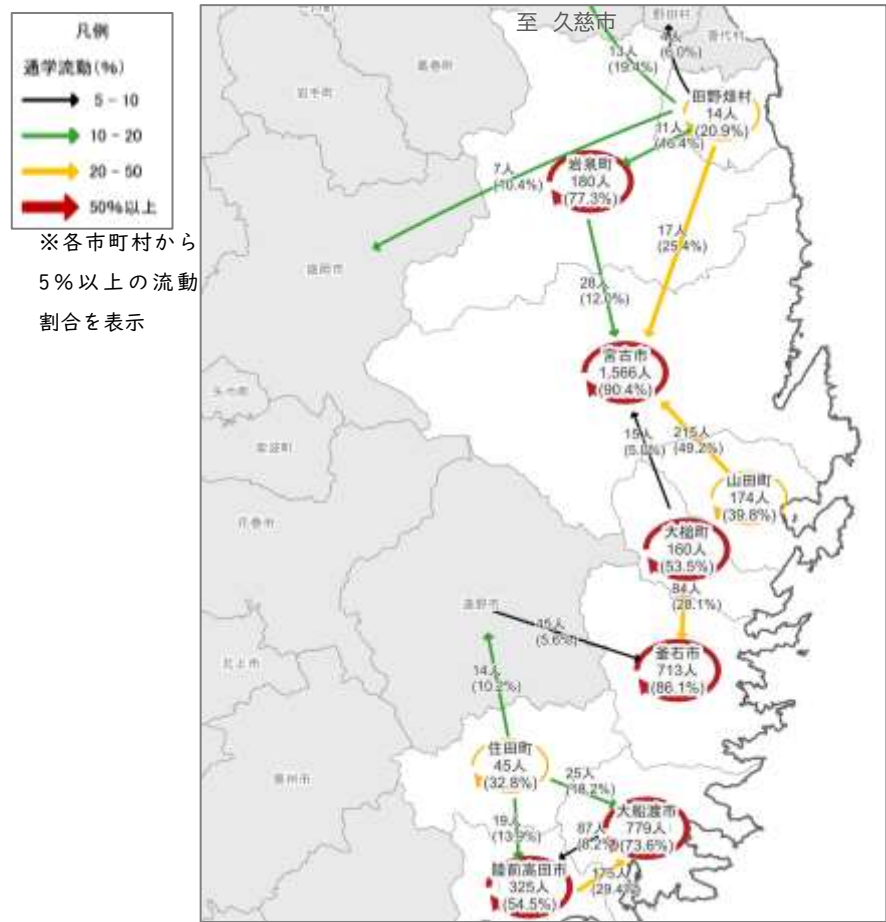


図 通学流動 2020(令和2)年 出典：国勢調査

表 市町村間の通学流動数(2020(令和2)年)

従業地・通学地→居住地↓		宮古市	大船渡市	陸前高田市	釜石市	住田町	大槌町	山田町	岩泉町	田野畑村
沿岸広域振興局	宮古市	1,566			2			3	1	
	大船渡市		779	87	5	26				
	陸前高田市	1	175	325	1	21				
	釜石市	10	5	2	713	5	20			
	住田町		25	19	4	45				
	大槌町	15	1		84	1	160			
	山田町	215			12		5	174		
	岩泉町	28							180	
	田野畑村	17							11	14

出典：国勢調査

2-3 通勤・通学時の移動手段

当該広域振興圏の通勤・通学時の移動手段は、鉄道の占める割合が他の広域振興圏に比べて最も低い1.3%となっている。

なお、乗合バス等の占める割合が3.3%であり、県南広域振興圏1.2%、県北広域振興圏1.7%よりも高い。

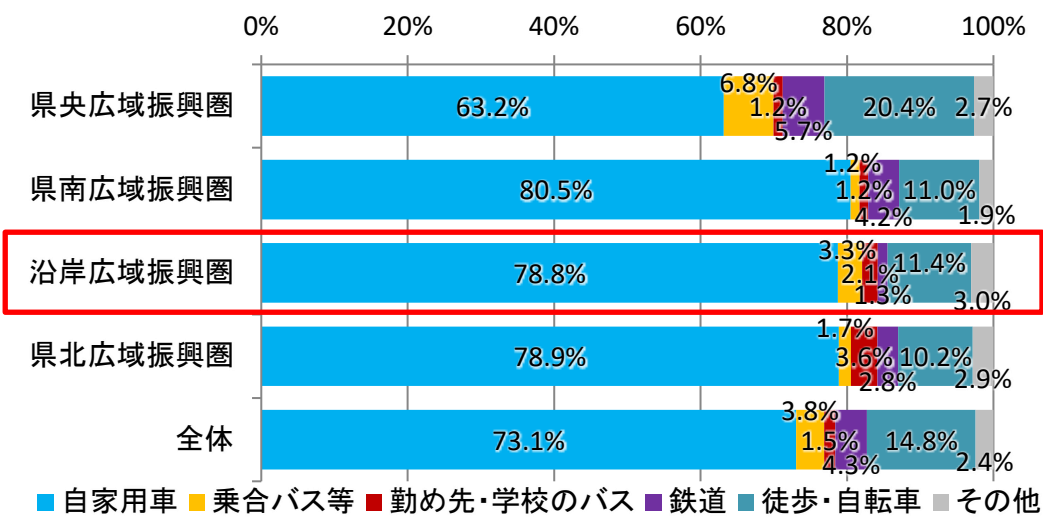
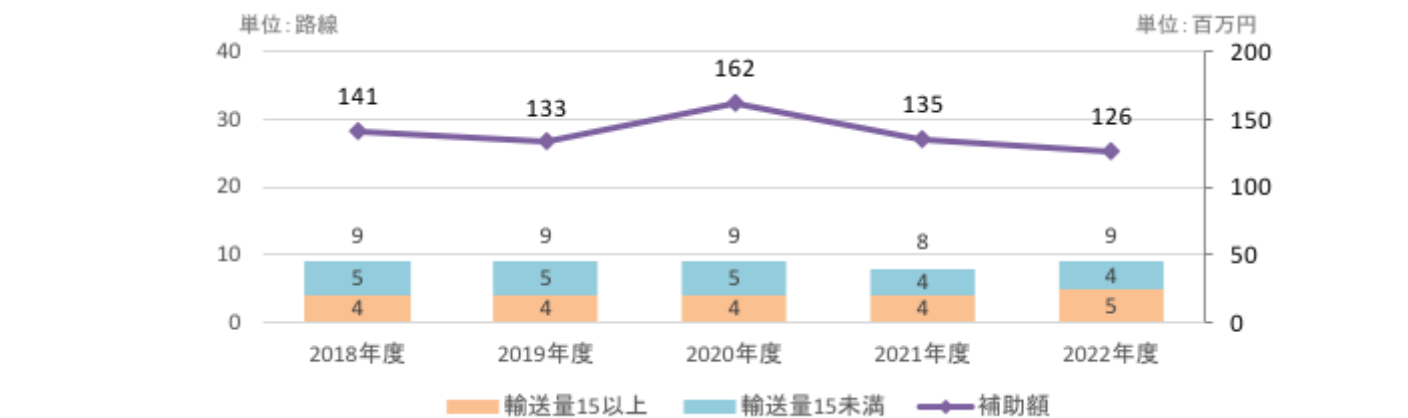
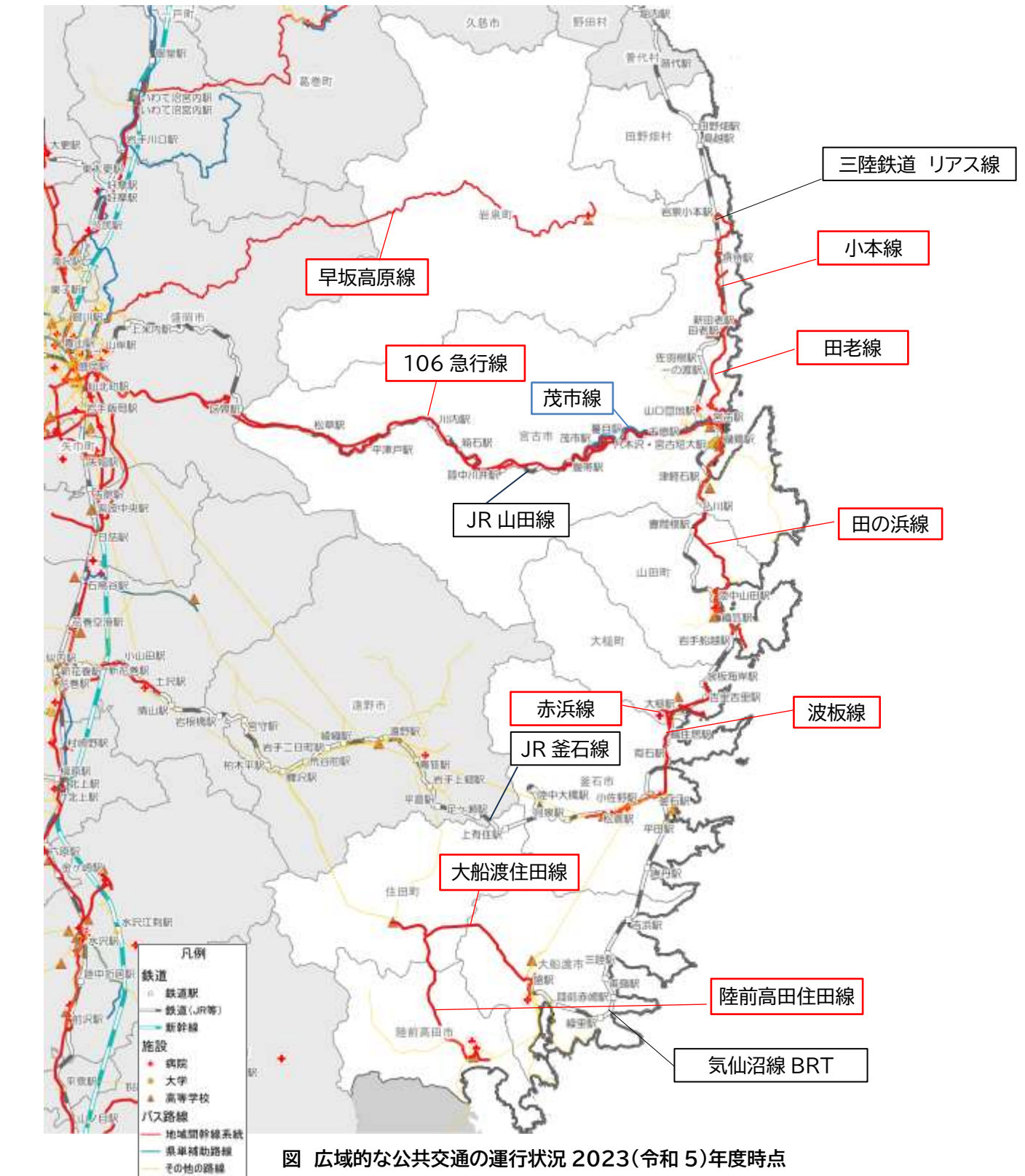


図 通勤・通学時の移動手段 2020(令和2)年 出典：国勢調査



No.	路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車 密度	輸送量		
						2022年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	大船渡住田	岩手県交通	住田高校前	盛駅前	大船渡市、住田町	2.8	2.8	8.3	8.4	
2	赤浜	岩手県交通	上大畑	赤浜	釜石市、大槌町	7.8	4.3	35.4	32.7	
3	浪板	岩手県交通	浪板	上大畑	釜石市、大槌町、山田町	7.1	4.1	32.6	29.8	
4	陸前高田住田	岩手県交通	住田高校前	イオンスーパー センター陸前高田	陸前高田市、住田町	4.3	1.4	9.2	7.7	
5	田老	岩手県北自動車	宮古駅前	三王三丁目	宮古市	2.9	2.4	9.8	7.2	
6	田の浜	岩手県北自動車	宮古駅前	田の浜	宮古市、山田町	7.9	4.3	42.4	34.7	
7	小本	岩手県北自動車	宮古駅前	岩泉小本駅前	宮古市、岩泉町	6.4	2.1	17.2	15.4	
8	106急行	岩手県北自動車	宮古駅前	盛岡駅	盛岡市、宮古市	4.3	8			
9	早坂高原	ジェイアールバス東北	盛岡駅前	龍泉洞前	盛岡市、岩泉町	4	3.8	14.4	10.5	

3-3 県単補助路線の運行状況

県単補助の系統数は 2018(平成 30)年度から 2020(令和 2)年度までは、細浦経由高田線の 1 系統のみであったが、2021(令和 3)年以降、国庫補助路線である和井内線を短縮する形で新設した茂市線が加わり 2 系統となっている。

なお、2022（令和 4）年 12 月、県単補助路線であった細浦経由高田線は廃止となっている。

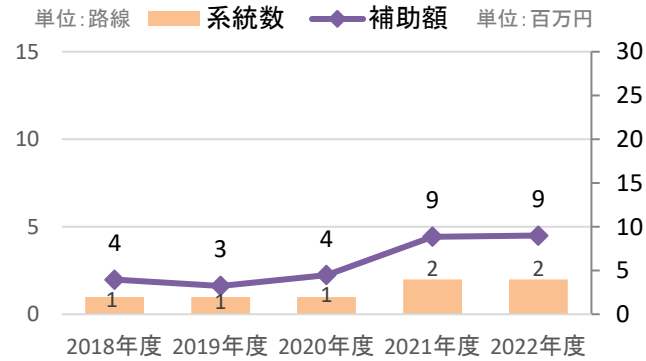


図 県単補助路線及び補助額の推移
出典：県単補助実績資料（岩手県）

表 県単補助路線の運行状況一覧 2022(令和4)年度時点

路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車密度		
					2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
細浦経由高田	岩手県交通	立根	竹駒駅前	大船渡市、陸前高田市	0.9	1.7	1.3	2.2
茂市	岩手県北自動車	宮古駅前	湯ったり館	宮古市	2.9		2.1	1.7

※最終的には 2023（令和 5）年度の数値を反映予定

3-4 地域内フィーダー系統の運行状況

宮古市・大船渡市・陸前高田市・釜石市・大槌町・山田町・田野畑村では地域内フィーダー系統補助を受けており、特に釜石市・山田町・田野畑村では地域間幹線系統への接続要件ではなく、交通不便地域の指定を要件とし、鉄道・BRT との接続により要件を満たしている。

通常の補助要件である地域間幹線系統との接続について、釜石市では赤浜線と接続しており、当該系統は 2022(令和 4)年度実績の輸送量が 33.5 である。また、大槌町では波板線、赤浜線と接続しており、浪板線は 2022(令和 4)年度実績の輸送量が 29.1 である。

これらの地域間幹線系統については、今後、運行回数や平均乗車密度の減少などにより補助要件を下回り、地域間幹線系統補助の対象外となった場合、地域内フィーダー系統補助が受けられなくなる可能性がある。

表 地域内フィーダー系統の運行状況一覧 2023(令和5)年度時点

市町村名	路線名	運行主体	接続する地域間幹線系統	接続場所
宮古市	※未回収			
大船渡市	※未回収			
陸前高田市	生出線、広田線、広田半島線、長部今泉線、たかたコミュニティバス西部線、デマンド交通 3 エリア	陸前高田市	大船渡線 BRT	陸前高田駅、小友駅など
釜石市	北部コミュニティバス、にこにこバス(箱崎白浜方面)	釜石市	赤浜線（輸送量 33.5）※	鵜住居駅前バス停
	南部コミュニティバス、にこにこバス(尾崎白浜方面)	釜石市	三陸鉄道リアス線	上平田バス停
大槌町	金沢小槌線、循環線	大槌地域振興(株)	浪板線（輸送量 29.1）※、赤浜線（輸送量 33.5）※	大槌駅、マスト前
山田町	やまだコミバス II 系統	山田町	三陸鉄道リアス線	陸中山田駅
田野畑村	くるもん号 4 系統	田野畑交通(有)、(有)田野畑観光タクシー	三陸鉄道リアス線	鳥越駅、田野畑駅

※2022（令和 4）年度実績

出典：市町村アンケート調査（2023. 9. 8 時点）

3-5 自治体別の地域内公共交通の運行状況及び交付額の推移

有償運送に対する交付額について、路線バスに対して、宮古市と岩泉町では 5,000 万円以上、陸前高田市では 4,500 万円以上、大船渡市と大槌町、山田町では 1,000 万円以上を補助している。また、市町村営バスに対して宮古市では 3,000 万円以上、住田町と山田町では 1,000 万円以上を負担している。

無償運送について、宮古市・大船渡市・陸前高田市では患者輸送バスに対する負担をしている。

表 自治体別の域内交通の運行状況及び交付額の推移 2021(令和3)年度
上段:補助・運行路線数(単位:路線)
下段:実質負担額(単位:千円)

市町村名	有償運送					無償運送				合計
	路線バスへの補助	市町村営バス(自家用車によるもの)	デマンド交通	バス事業者への委託	その他	スクールバス	患者輸送バス	福祉バス	その他	
宮古市	38	15	0	0	0	24	3	0	0	80
	54,971	31,978	0	0	0	125,225	13,132	0	0	225,306
大船渡市	4	0	2	0	0	13	2	0	0	21
	19,856	0	1,999	0	0	58,009	5,319	0	0	85,182
陸前高田市	9	0	3	0	0	5	4	1	2	24
	47,452	0	5,700	0	0	35,881	-8,501	4,103	838	85,475
釜石市	0	0	0	6	0	13	0	1	0	20
	0	0	0	56,326	0	30,654	0	1,741	0	88,720
住田町	0	20	0	1	0	3	0	0	0	24
	0	15,949	0	2,185	0	19,149	0	0	0	37,282
大槌町	6	0	0	0	0	10	0	0	0	16
	16,505	0	0	0	0	35,345	0	0	0	51,851
山田町	12	6	0	6	0	14	0	1	1	40
	13,118	10,045	0	6,996	0	30,436	0	4,782	513	65,891
岩泉町	13	0	0	0	1	17	0	0	0	31
	60,701	0	0	0	866	70,599	0	0	0	132,166
田野畑村	0	0	5	0	0	0	0	0	11	16
	0	0	9,847	0	0	0	0	0	47,188	57,035

出典：2022（令和 4）年度自治体バス等の運行状況調査

3-6 計画の策定状況

当該広域振興圏では 9 自治体中 6 自治体で計画を策定しており、岩泉町・田野畑村において令和 5 年度中の策定を予定している。

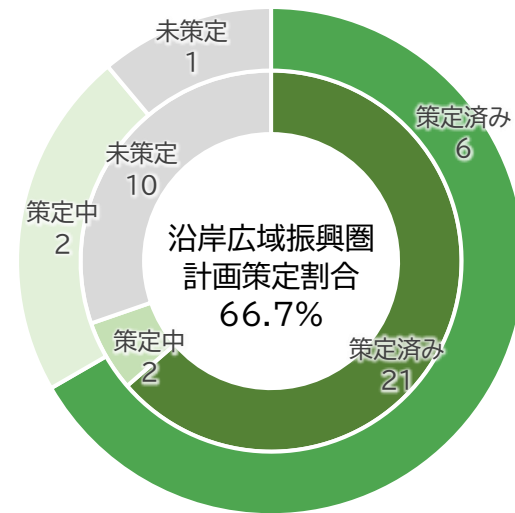


図 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和 5)年 6 月時点
(内側:県全体、外側:当該広域振興圏)

表 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和 5)年 6 月時点

市町村名	地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況		
	①区分	②策定(予定)時期	備考
宮古市	策定済み		
大船渡市	策定済み		
陸前高田市	策定済み		
釜石市	策定済み		
住田町	未策定	未定	
大槌町	策定済み		
山田町	策定済み		
岩泉町	策定中	令和5年度中	
田野畑村	策定中	令和5年度中	

出典：各市町村からのヒアリング結果等

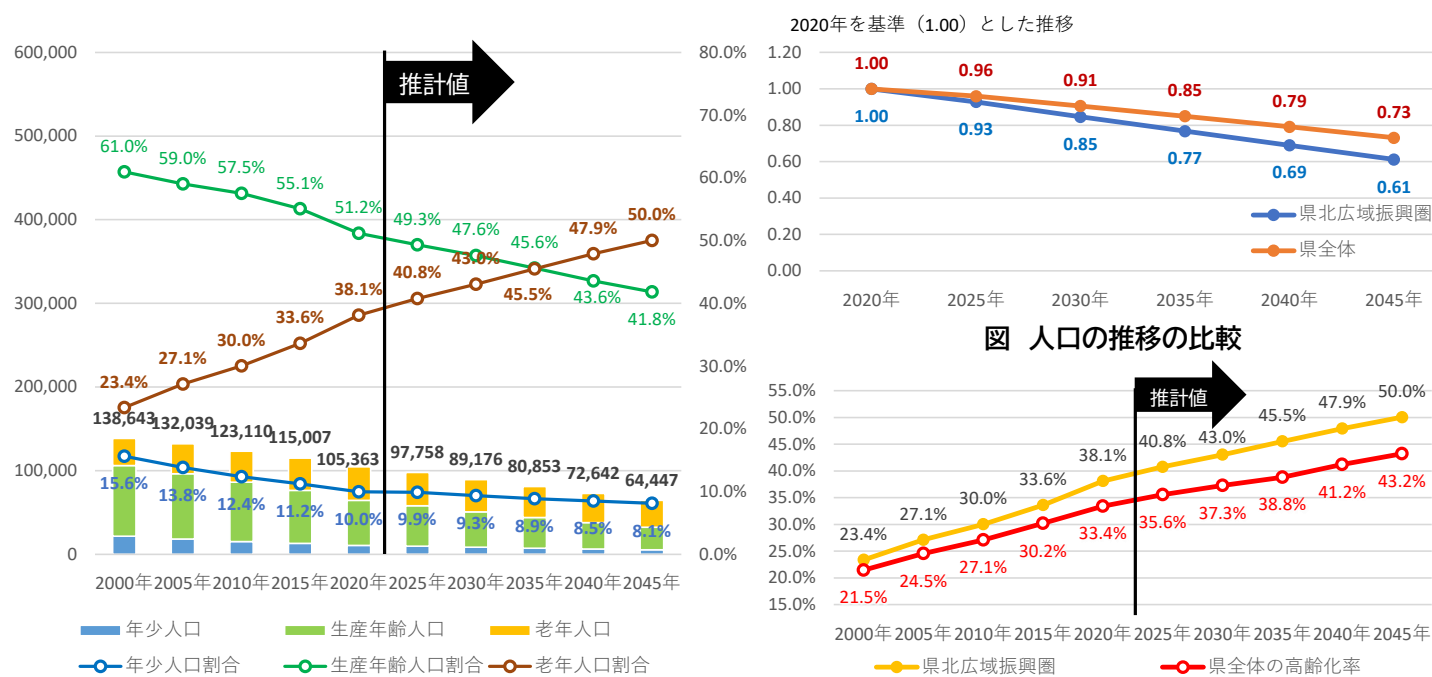
■県北広域振興圏(久慈市・二戸市・普代村・軽米町・野田村・九戸村・洋野町・一戸町)

1. 人口の推移等

1-1 人口の推移

2020(令和2)年現在の人口は約10万5千人であり、現在まで減少傾向にあるが、2025(令和7)年以降も減少する見込みである。なお、2045(令和27)年の対2020(令和2)年比の当該広域振興圏の減少率は▲39%であり、県全体の減少率▲27%に比べて12ポイント高い見込みである。

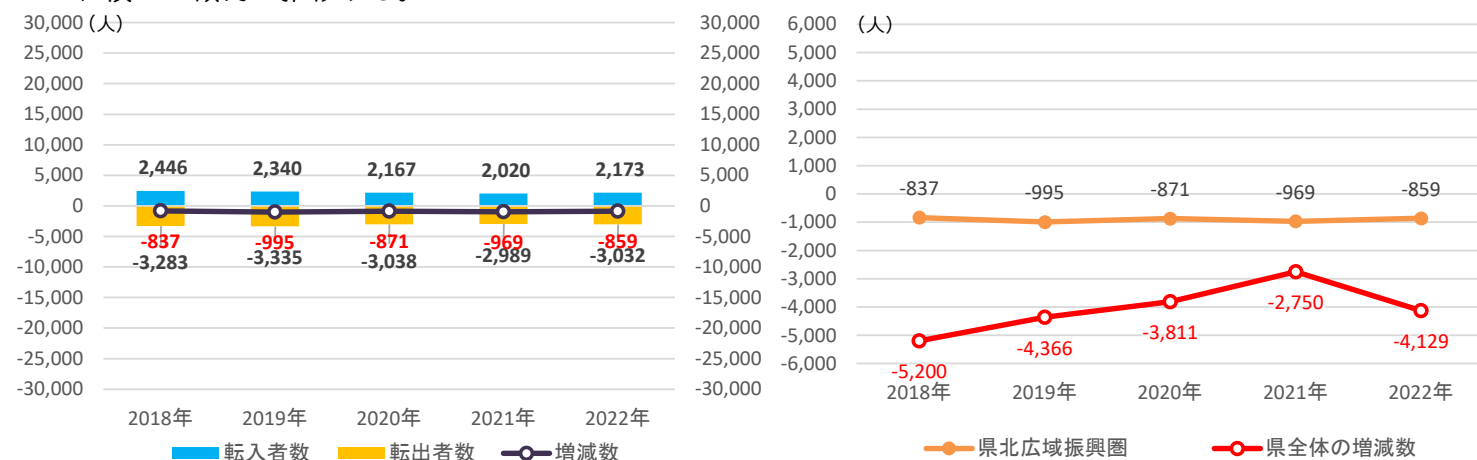
高齢化率は現在まで増加傾向にあるが、2025(令和7)年以降も増加する見込みであり、2045(令和27)年時点では、県全体が43.2%であるのに対し、50.0%と6.8ポイント高い見込みである。



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

1-2 転入・転出による人口動態

当該広域振興圏は、転出者数が転入者数を上回る転出超過（社会減）の状態が続いている。社会減の人数は、2018(平成30)年から2022(令和4)年まで微増・微減を繰り返しているものの、概ね横ばい傾向に推移する。



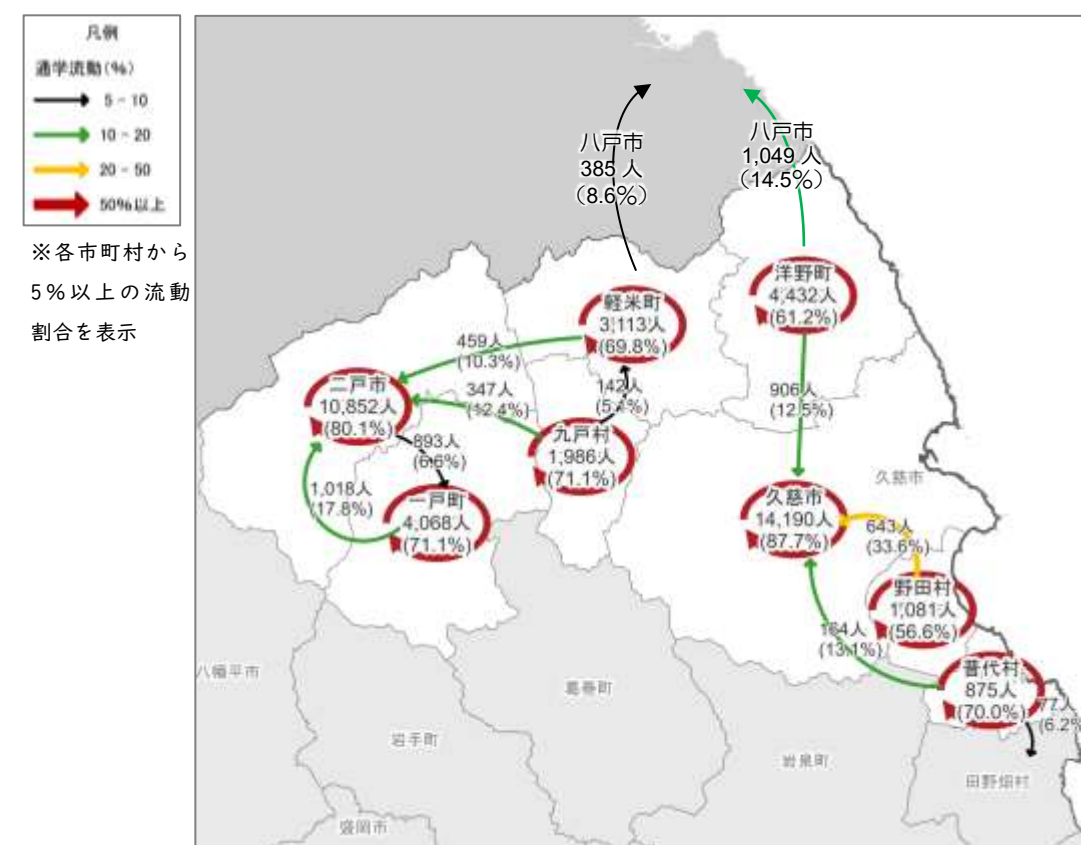
出典：岩手県人口移動報告年報

2. 市町村間の流動状況

2-1 通勤流動

市町村を跨ぐ通勤流動は、久慈市へ洋野町、野田村、普代村から10～35%（約1,700人）の流動があり、二戸市へ軽米町、一戸町、九戸村から10～20%（約1,800人）の流動があるなど、2市を中心とした広域的な流動が発生している。

また、洋野町と軽米町からは県外の八戸市へ5～15%（約1,400人）の流動があり、県を跨いだ広域的な流動も発生している。



出典：国勢調査

表 市町村間の通勤流動数(2020(令和2)年)

従業地・通学地→居住地↓		久慈市	洋野町	野田村	普代村	二戸市	軽米町	九戸村	一戸町
県北広域振興局	久慈市	14,190	458	329	113	52	30	53	7
	洋野町	906	4,432	16	2	19	140	36	1
	野田村	643	14	1,081	54	1	1	1	1
	普代村	164	2	30	875			1	
	二戸市	48	18			10,852	272	338	893
	軽米町	82	47	3		459	3,113	166	39
	九戸村	50	2	1	2	347	142	1,986	94
		一戸町	16	1		1,018	36	66	4,068

出典：国勢調査

2-2 通学流動

市町村を跨ぐ通学流動は、久慈市へ洋野町、野田村、普代村、田野畑村（広域振興圏外）から20～60%（約230人）の流動があり、二戸市へ軽米町、一戸町、九戸村から10～25%（約130人）の流動があるなど、通勤流動と同様、2市を中心とした広域的な流動が発生している。

また、広域振興圏外である盛岡市へ二戸市、一戸町、九戸村、普代村から5～25%（約200人）の流動があるなど、複数の市町村を跨いだ広域的な流動が発生しているほか、軽米町と洋野町からは県外の八戸市へ10～30%（約170人）の流動があり、通勤流動と同様、県を跨いだ広域的な流動が発生している。

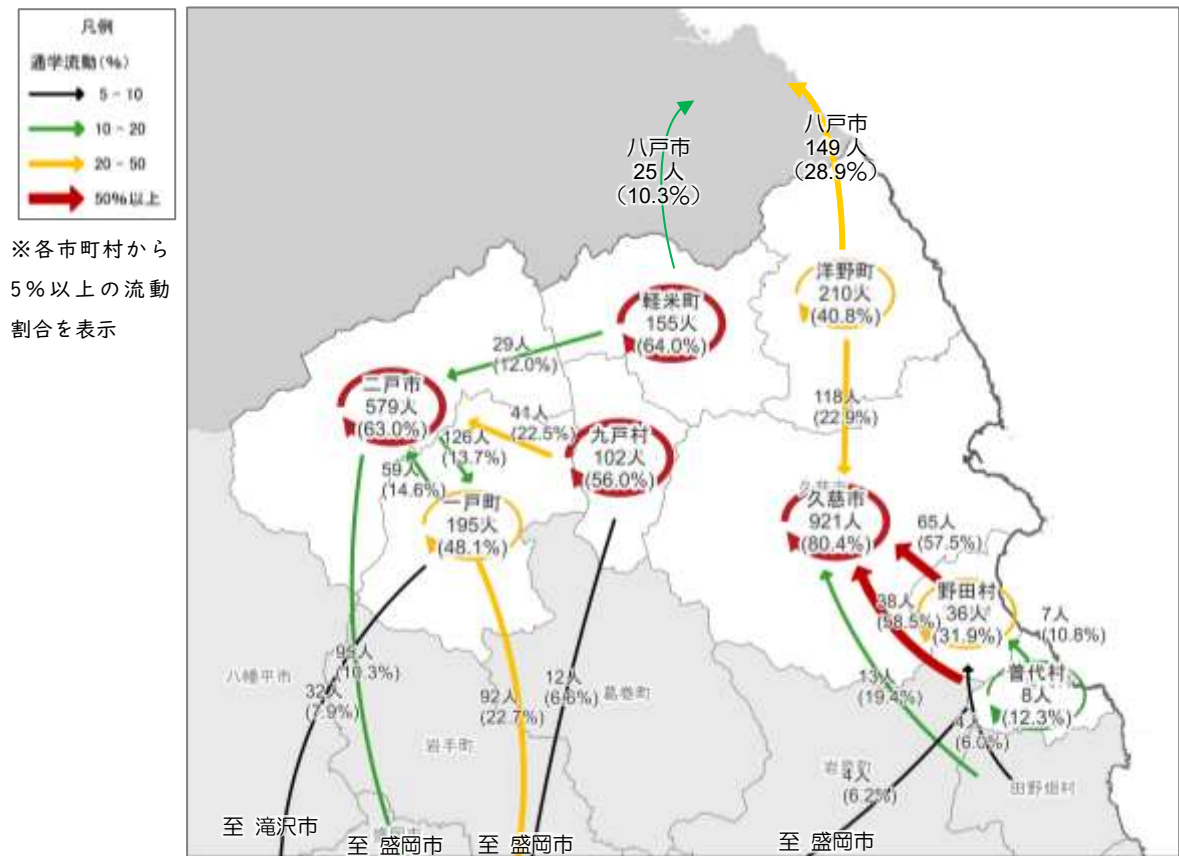


表 市町村間の通学流動数(2020(令和2)年)

従業地・通学地→居住地↓		久慈市	洋野町	野田村	普代村	二戸市	軽米町	九戸村	一戸町
県北広域振興局	久慈市	921	18	37		5			
	洋野町	118	210	2			1		
	野田村	65		36					
	普代村	38	1	7	8				
	二戸市					579		4	126
	軽米町	2	1			29	155	1	3
	九戸村	1				41	1	102	8
	一戸町					59			195

出典：国勢調査

2-3 通勤・通学時の移動手段

当該広域振興圏の通勤・通学時の移動手段は、乗合バス等の占める割合が1.7%であり、県南広域振興圏に次いで低い割合となっている。

なお、勤め先・学校のバスの占める割合が3.6%であり、広域振興圏の中で最も高い割合となっている。

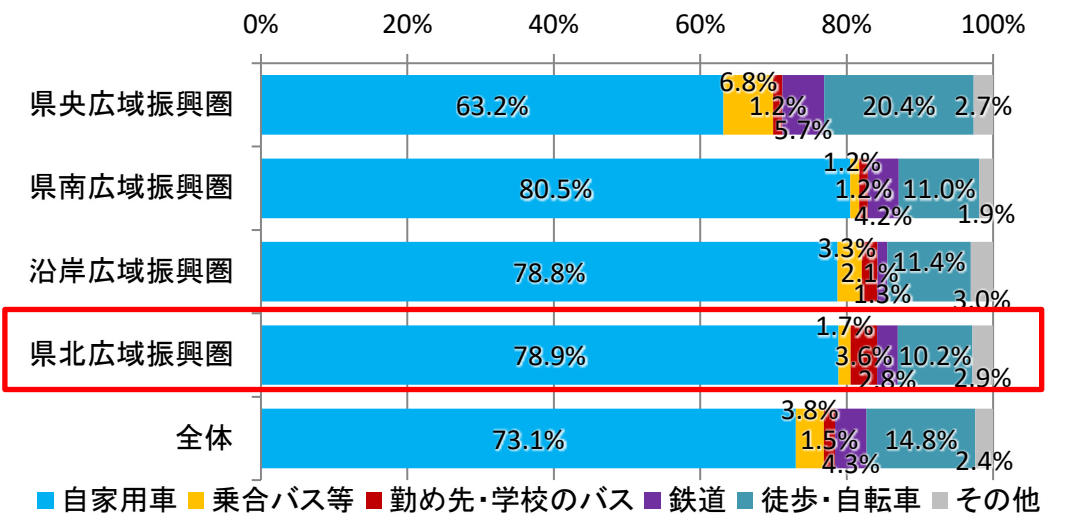


図 通勤・通学時の移動手段 2020(令和2)年 出典：国勢調査

3. 公共交通の運行状況

3-1 広域的な公共交通の運行状況

当該広域振興圏では、地域間幹線系統（国庫補助路線）5 系統や県単補助路線 3 系統などの補助対象系統のほか、補助を受けない路線バスが運行している。

また、鉄道は、三陸鉄道、JR 八戸線及び IGR いわて銀河鉄道が運行している。

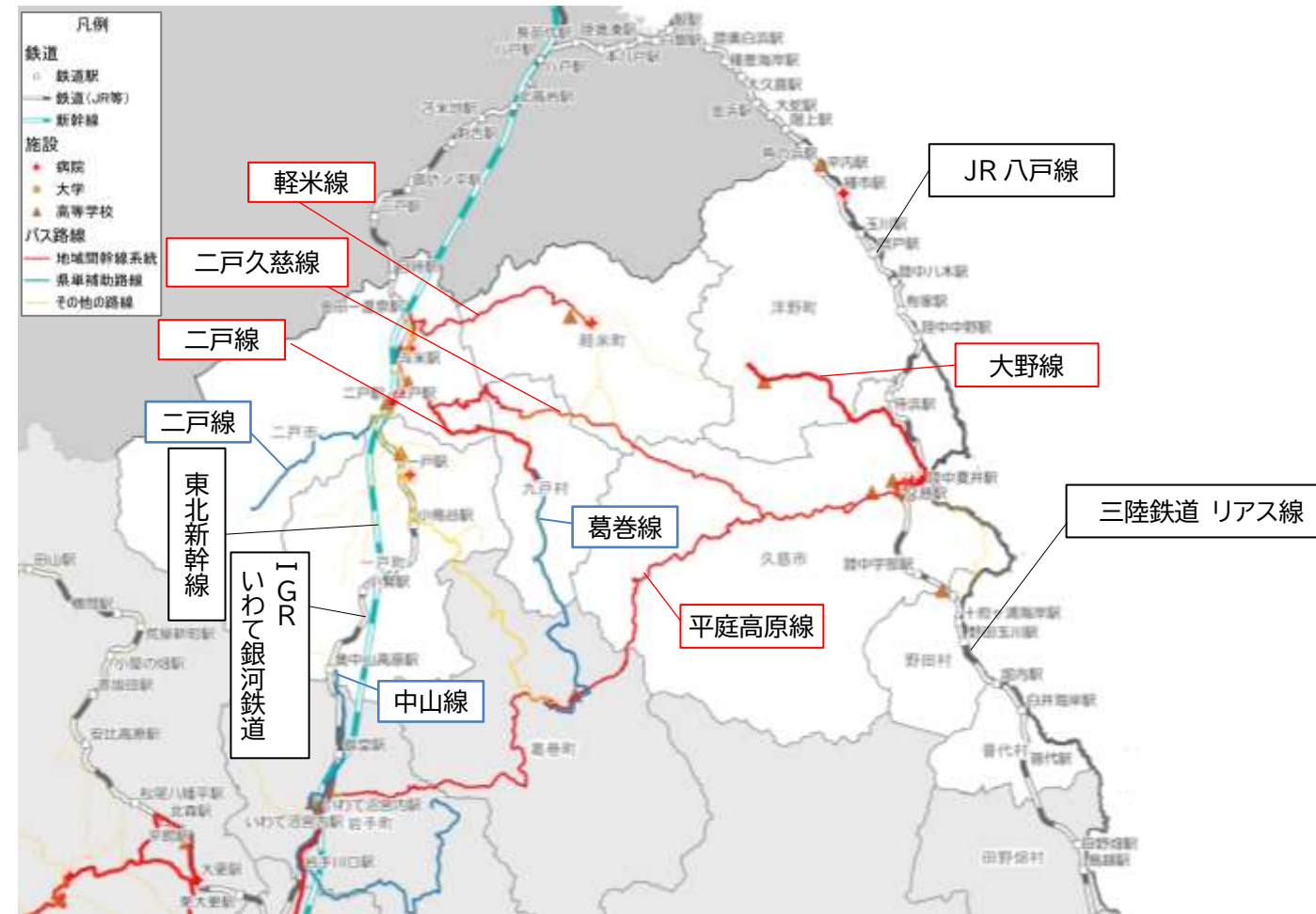


図 広域的な公共交通の運行状況 2023(令和 5)年度時点

3-2 地域間幹線系統(国庫補助路線)の運行状況

当該広域振興圏の地域間幹線系統は 5 系統であり、そのうち 2 系統が 2022(令和 4)年度実績において輸送量 15.0 を下回っているなど、今後補助要件を満たさなくなることが懸念される。

輸送量 15.0 を満たしているものの、輸送量 20 を下回る系統（輸送量 15～20）が 2 系統あり、今後、平均乗車密度（あるいは、運行回数）が減少した場合、輸送量 15.0 を下回ることが懸念される。

また、5 系統全てが平均乗車密度 5.0 を下回り、密度カットの対象となっている。

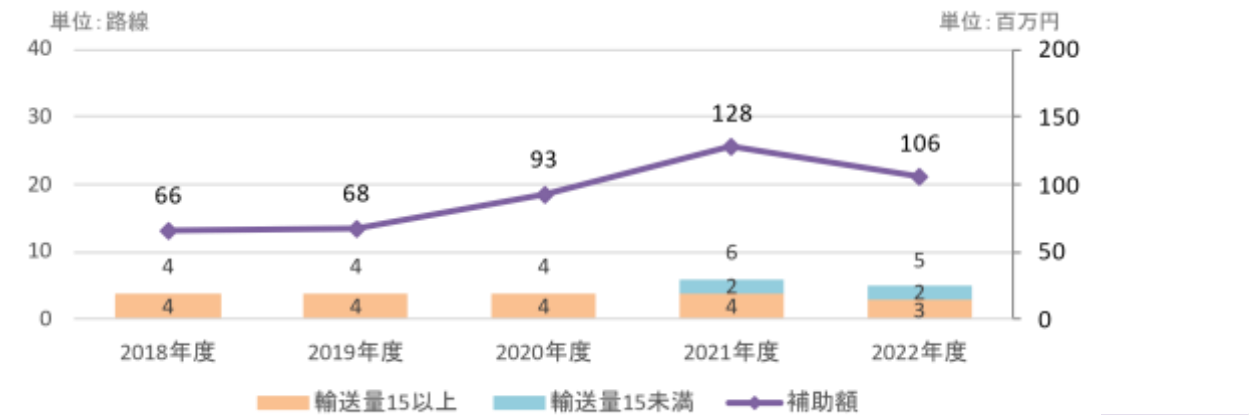


図 地域間幹線系統数及び補助額の推移 出典：国庫補助実績資料（岩手県）

表 地域間幹線系統の運行状況一覧 2022(令和4)年度時点

No.	路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車 密度	輸送量		
						2022年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	二戸	岩手県北自動車	伊保内営業所	二戸駅前	二戸市、九戸村	7.3	3.1	21.3	21.0	22.6
2	大野	岩手県北自動車	久慈駅	陸中大野	久慈市、洋野町	3.2	3.9	15.0	15.0	12.4
3	軽米	ジェイアールバス東北	二戸駅	軽米病院	二戸市、軽米町	4.6	3.1	16.1	14.7	14.2
4	平庭高原	ジェイアールバス東北	盛岡駅	久慈駅	盛岡市、久慈市、滝沢市、葛巻町、岩手町	4.9	3.5	17.1	15.1	17.1
5	二戸久慈	ジェイアールバス東北	二戸駅	久慈駅	二戸市、九戸村、軽米町、久慈市	4.9	3.9		15.0	19.1

※最終的には 2023（令和 5）年度の数値を反映予定

3-3 県単補助路線の運行状況

2022(令和4)年度の県単補助路線数は3系統である。
全体的に平均乗車密度が減少傾向にあり、特に二戸線(2020(令和2)年度:3.9→2022(令和4)年度:2.9)と中山線(2021(令和3)年度:2.2→2022(令和4)年度:1.3)が大きく減少している。

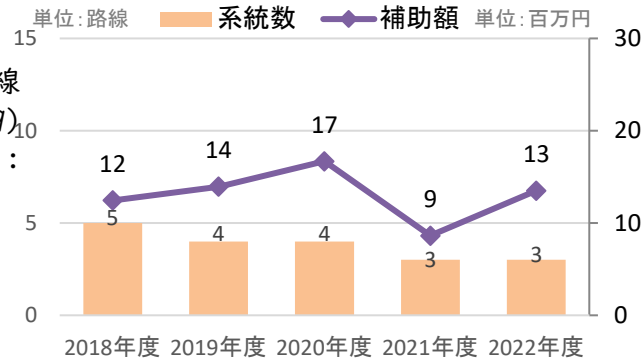


図 県単補助路線及び補助額の推移
出典：県単補助実績資料（岩手県）

表 県単補助路線の運行状況一覧 2022(令和4)年度時点

路線名	事業者名	起点	終点	関係市町村	運行回数 (回/日)	平均乗車密度			
					2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	
二戸	ジェイアールバス東北	浄法寺	仁左平	二戸市、一戸町	4.4	3.9	3.4	2.9	
中山	岩手県北自動車	いわて沼宮内駅前	中山	岩手町、一戸町	2.5	1.7	2.2	1.3	
葛巻	岩手県北自動車	ふれあい広場	葛巻中学校前	葛巻町、九戸村	2.0	1.6	1.2	1.3	

※最終的には2023(令和5)年度の数値を反映予定

3-4 地域内フィーダーシステムの運行状況

当該広域振興圏で地域内フィーダーシステム補助を受ける自治体はなし。

3-5 自治体別の地域内公共交通の運行状況及び交付額の推移

有償運送に対する交付額について、路線バスに対して、一戸町では3,500万円以上、九戸村では2,500万円以上、軽米町では1,000万円以上を補助している。また、市町村営バスに対して二戸市では4,000万円以上、軽米町と洋野町では2,000万円以上を負担している。
無償運送について、久慈市・普代村・洋野町では患者輸送バスに対する負担をしている。

表 自治体別の域内交通の運行状況及び交付額の推移 2021(令和3)年度
上段:補助・運行路線数(単位:路線)
下段:実質負担額(単位:千円)

市町村名	有償運送					無償運送				合計
	路線バスへの補助	市町村営バス(自家用車によるもの)	デマンド交通	バス事業者への委託	その他	スクールバス	患者輸送バス	福祉バス	その他	
久慈市	1 1,751	0 0	2 1,941	21 49,860	0 0	17 46,923	8 6,007	1 6,560	1 418	51 113,460
二戸市	0 0	29 43,180	0 0	0 0	0 0	40 78,164	0 0	0 0	0 0	69 121,344
普代村	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 8,388	3 966	0 0	15 904	22 10,258
軽米町	4 10,228	14 20,778	0 0	4 37,209	0 0	14 54,779	0 0	0 0	0 0	36 122,994
野田村	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 5,660	0 0	0 0	8 14,117	10 19,777
九戸村	15 27,150	0 0	0 0	0 0	0 0	7 3,945	0 0	0 0	0 0	22 31,095
洋野町	1 7,071	3 20,346	0 0	1 1,601	0 0	12 43,777	5 4,570	5 2,104	0 0	27 79,469
一戸町	10 38,154	0 0	1 23,008	0 0	1 1,000	10 38,913	0 0	0 0	0 0	22 101,075

出典：2022(令和4)年度自治体バス等の運行状況調査

3-6 計画の策定状況

当該広域振興圏では8自治体中2自治体で計画を策定しているものの、町村においては計画を策定していない状況にある。

表 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和5)年6月時点

市町村名	地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況		
	①区分	②策定(予定)時期	備考
久慈市	策定済み		
二戸市	策定済み		
普代村	未策定	未定	
軽米町	未策定	未定	
野田村	未策定	未定	
九戸村	未策定	未定	
洋野町	未策定	未定	
一戸町	未策定	未定	

出典：各市町村からのヒアリング結果等

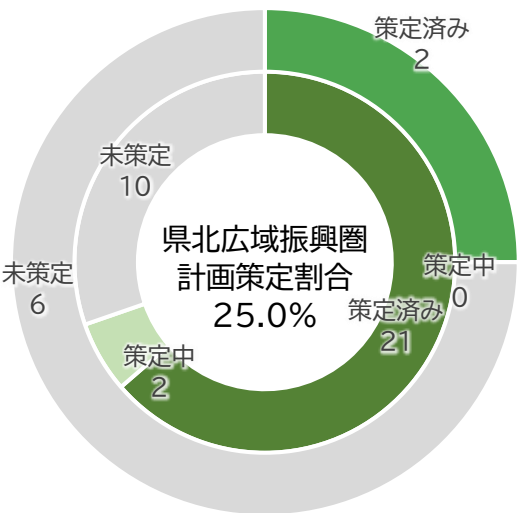


図 地域公共交通計画等(旧制度含む)の策定状況
2023(令和5)年6月時点
(内側:県全体、外側:当該広域振興圏)